

世親造『攝大乘論釋』所知依章 の漢藏対照 (一)

岩 田 諦 静

周知のように、無著 (Asaṅgha) の『攝大乘論』は彼以前の『解深密経』五卷や『瑜伽師地論』百卷など、それまで説かれてきた瑜伽行唯識学説を組織的に体系化した唯識哲学の概説書であり、『瑜伽師地論』などの龐大な唯識説を簡潔に十章にまとめたものである。

その内容を簡単に記すと次のようである。序論総綱要分は「阿毗達磨大乘経」の十種の殊勝語 (すぐれた特徴) に基づいて、以下の十章を説くことを明す。第1章 所知依分は阿頼耶識の存在論証とその機能及び薰習や種子の意味など阿頼耶識説を説く。第2章 所知相分は遍計所執相・依他起相・円成実相の三性説の解明及び一切諸法が唯識である論証などを説く。第3章 入所知相分は阿頼耶識縁起説と三性説を修めて唯識観に悟入する実修の次第を説く。第4章 彼入因果相分は唯識観の実修を六波羅蜜によって説く。第5章 彼修差別分は六波羅蜜の修行の差別による十種の階程 (菩薩道の十地) を説く。第6章 増上戒学分は菩薩の戒律に依って学ぶことを説く。第7章 増上心学分は首楞嚴三昧などの禅定を説く。第8章 増上慧学分は禅定と戒律に依って智慧 (無分別智) を説く。第6・7・8章の3章は戒定慧の三学を説く章である。第9章 果断分は煩惱・所知の二障を棄捨 (断) して涅槃 (解脱) の果を得る成仏論を説く。第10章 彼果智分は仏の三身説と浄土説を説いて仏陀論を説いている。

その『攝大乘論』を世親 (Vasubandhu, 約400—480) が注釈したのが世親造の『攝大乘論釈』である。この『攝大乘論釈』には三漢訳本とチベット訳本がある。それを漢訳の年代順に見ると真諦訳 (563年) と達磨笈多訳 (605—616年) と玄奘訳 (648—649年) がある。チベット訳は Dīpaṃkaraśrijñāna 訳 (Atiśa, 阿通沙, 1045—1054年) がある。『攝大乘論』とその『無性釈』のチベット訳は『世親釈』より約250年も早く Ye Śes sde などにより訳されている。しかし、なぜ『世親釈』が遅れて訳されたかについては明確ではない。⁽¹⁾

筆者はすでに世親造の『攝大乘論釈』の第2章 所知相章の漢藏対照を行い公表している。⁽²⁾ しかし、それは第2章のみであり、引き続き残りの序論と9章の部分の作業を行うべきであったが、筆者の個人的な都合により中断していた。今回、対照する箇所は『世親釈』の序論 (総綱要分) と第1章 所知依分の一部である。

この『世親釈』の序論の部分に対する漢訳三本とチベット訳本との対照には、すでに長尾雅

人氏の「撰大乘論世親積の漢蔵本対照」(東方学報)と題する優れた研究がある。更に、『撰大乘論』のチベット訳の校訂についても、長尾雅人氏の『撰大乘論——和訳と注解——』(講談社)の付録としてローマナイズ本がある。今回この対照を行うに当って、それらの研究成果を参照し、多くの示唆を得たことを明記して学恩に感謝するものである。

今回掲載の対照部分で、特に注意を引いた箇所について二、三指摘しよう。

『世親積』の「総標綱要分」の帰敬偈は、なぜか達磨笈多訳に記載されていない。

[序・4]の箇所について、玄奘訳では注釈の部分で、同じ論の部分重複して注釈している。それは「復有異門。是最能引大菩提性者。…中略…云何能随順。謂無違轉故。」である。しかし、真諦訳と達磨笈多訳及びチベット訳では、それは[序・5]の注釈部分の後半に有る。これはおそらく玄奘が訳出に際し、その注釈の該当する箇所へ移動させたものであろう。しかし、後者の三訳が本来の姿ではなかったかと考えられる。この重複の注釈部分には、三量説が説かれていることから、最初の『世親積』にはなかったのではないかと、それは世親自身か、他の者によって、後に追加注釈されたのではないかと考えられないであろう⁽³⁾。

[1. 7]の箇所について、チベット訳では、この箇所の注釈部分は[1. 10]の注釈部分に有る。しかし、明らかに[1. 7]の注釈であることから、三漢訳本に従って、本校のチベット訳では[1. 7]の注釈部分に移動した。その注釈部分は玄奘訳について見ると、2つに区分される。それは前半の「此文復以余道理、…中略…若不_レ許者有上過失。」と、後半の「重頭_レ彼故説四伽他、…中略…余文易了、不復須積。」とである。前半の部分は真諦訳と達磨笈多訳及びチベット訳にも有ることから本来有ったものであろう。しかし、後半の部分は玄奘訳だけに有って、他の諸訳本には存在しない。それはなにを意味しているのか、にわかに理解しがたい。

以下に漢訳三本とチベット訳本との比較対照を行うに当っての凡例ともいべきものを記しておこう。⁽⁴⁾本対照は、無著の『撰大乘論』(Mahāyāna-saṃgraha)と世親造の『撰大乘論積』(Mahāyāna-saṃgraha-bhāṣya)の序論と第1章 所知依章の漢訳三本とチベット訳本との比較対照である。しかし、漢訳三本の『世親積』には『撰大乘論』全体が引用されているが、チベット訳の『世親積』には漢訳三本のように『撰論』全体は引用されていないので、本対照ではチベット訳『撰論』を玄奘訳の区切を参照して挿入し、利用者の便宜をはかった。

漢訳対照の凡例 『撰大乘論積』の底本には『大正新脩大蔵経』31巻所収のものを用いた。なお、三漢訳は上段から翻訳年順に従って次のように配列した。上段・陳の真諦訳・撰大乘論積15巻、中段・隋の笈多共行矩等訳・撰大乘論積論10巻、下段・唐の玄奘訳・撰大乘論積10巻とした。玄奘訳本の論の部分(論曰)を基準にし、それに真諦訳本と達磨笈多訳本とを比較対照させた。玄奘訳本を基準とし、それに通し番号(略号[序・1]～[序・5]など)を付けた。

チベット訳本にも玄奘訳本と同じく、通し番号を付け、また真諦訳本・笈多訳本にも対応部分に同一の番号を付け、比較対照に便ならしめた。玄奘訳本及びチベット訳本の区分に順じて論曰と釈曰を前後させた方がよいと考えられる場合でも個々の漢訳の特色を残すことを考慮してできるだけ移動しないことにした。

略号 [論曰] [釈曰] は対照上やむをえず前後移動させた場合の箇所を明示した。

[] は他訳によって訳語・文章を校訂・挿入したことを示した。

『大正新脩大藏経』の注によって本文を校訂した場合は明記しなかった。

チベット訳対照の凡例 チベット訳本はデルゲ版と北京版のテキストを校合し、それにナルタン版を参照した。なお、挿入の『撰大乘論』はゴシック活字にした。

略号 D. (Derge) = Theg pa chen po bsdu pa (Mahāyāna-saṃgraha), デルゲ版・東京大学所蔵. No. 4048. (東北目録)。

= Theg pa chen po bsdu paḥi ḥgrel pa (Mahāyāna-saṃgraha-bhāṣya), 同上. No. 4050. (東北目録)。

P. (Peking) = Theg pa chen po bsdu pa, 『影印北京版西蔵大藏経』 vol. 112, No. 5549 (大谷目録)。

= Theg pa chen po bsdu paḥi ḥgrel pa, 同上. vol. 112, No. 5551. (大谷目録)。

N. (Narthatang) = Theg pa chen po bsdu pa, ナルタン版・東京大学所蔵. No. 3540 (壬生台舜編『大正大学所蔵チベット大藏経 論疏部目録 ナルタン版』1967)。

= Theg pa chen po bsdu paḥi ḥgrel pa, 同上, No. 3542 (同上)。

デルゲ版・北京版・ナルタン版の『撰大乘論』と『世親釈』の略号を区別すべきかとも考えたが、ローマ字化本文中に各版の葉数を挿入したので D. P. N. とだけ記した。

長尾本 = 長尾雅人「撰大乘論世親釈の漢藏本対照」(東方学報(京都)第13冊第2分, 東方文化研究所, 昭和18年1月) p. 119-175。

= 長尾雅人『撰大乘論 和訳と注解 上』(講談社, 昭和57年6月30日), 付録 Mahāyāna-saṃgraha p. 3-106. 長尾本としてあるのは、撰大乘論の本文の場合は講談社版のことであり、世親釈の場合は「東方学報」のものを指している。

注

- (1) 拙論「世親釈のチベット訳年代」(拙著『初期唯識思想研究——世親造「撰大乘論釈」所知相章の漢藏対照——』大東出版社, 昭和56年) p. 60-62。(2) (1)同上。(3) 拙論「真諦訳の『撰大乘論世親釈』における三性説について (I)」(『法華文化研究』第13号, 昭和62年3月) p. 42-45。
- (4) 注(1)の拙著の凡例参照, p. 63-64。

大正藏31卷
153 c

攝大乘論釋卷第一

世親 菩薩 釋

陳天竺三藏眞諦譯

釋依止勝相中衆名品第一

智障極盲闇 謂眞俗別執
 由如理如量 無分別智光
 破成無等覺 滅心惑無餘
 常住德圓智 恒隨行大悲
 如衆生根性 極解脫眞道
 於十方界說 能無功用心
 由無分別智 不_レ住於生死
 常起大悲故 不_レ入於涅槃
 由攝智方便 至_レ自他極利
 我以_レ身口意 頂禮佛世尊
 是無上正法 如來自覺說
 若人能正行 至_レ甘露妙迹
 若誹謗此法 沒_レ無底枉坑
 由智及信心 頂禮眞實法
 住道住果僧 普勝一切衆
 智道浴清淨 世無上福田
 片善投於中 廣大如空地
 成就世間樂 及清涼涅槃
 我一心頂禮 佛聖弟子衆

攝大乘論釋卷第一

世親 菩薩 造

隋天竺三藏笈多共行矩等譯

應知依止勝相勝語第一

321 a

總標綱要分第一
 諸破所知障翳暗 盡_レ其所有_レ如_レ所有_レ
 諸法眞俗理影中 妄執競與_レ於異見
 斯由_レ永離_レ諸分別_レ 無垢清淨智光明_上
 獲_レ得最勝_レ三菩提_レ 惑障并習斷常住
 能無功用於_レ十方_レ 隨_レ諸有情意所_レ樂
 開_レ示殊勝極廣大 三種解脫等方便_レ
 由_レ無分別有_レ大悲_レ 生死涅槃俱不_レ住
 由_レ攝_レ妙慧巧方便_レ 究竟至_レ極自他利_レ
 如_レ是世尊等所_レ覺 等所_レ開示_レ微妙法
 若能於_レ此善修行 必獲_レ寂然甘露迹_レ
 誹謗決定沒_レ無_レ底 甚久無能大苦海_レ
 學無學僧居_レ道果_レ 普勝一切所餘僧
 善逝無垢功德河 眞實於_レ中而沐浴
 爲_レ世無上良福田_レ 雖_レ復投_レ於_レ微少善_レ
 而便廣大如_レ地空_レ 慧者由_レ斯得_レ解脫_レ
 故我至誠身語思 頻修_レ無倒歸命禮_レ
 軌範諸師今減少 眞法正理多渾濁
 皆由_レ聽_レ邪慢人 依_レ自尋思_レ失_レ教證_上
 我師於_レ此非_レ前後_レ 逢_レ事聖者大慈尊_レ

321 b

總標綱要分第一

三藏法師支婁奉 詔譯

世親 菩薩 造

攝大乘論釋卷第一

⁽¹⁾
 Rgya gar skad du | Mahāyāna-saṃgraha-bhāṣya |
 Bod skad du | Theg pa chen po bsdus paḥi ḥgrel pa |
 | Bam bo dañ po |⁽²⁾
 sañs rgyas la phyag ḥtshal lo |
 | ḥphags pa ḥjam dpal gshon nur gyur pa la phyag ḥtshal lo |⁽³⁾
 | gañ shig śes byaḥi skrib pa mun pa rab rib dag gis ji sñed ji lta bar |
 | yod pa don dam kun rdsob tshul gyis chos gañ gzugs brñan gshan du snañ
 gyur paḥi |
 | sems can rnams la bsam pa bshin du dri med thar paḥi thabs ni ranm pa [N.
 130 a] gsum |
 | ñon moñs bag chags bcas par bcom paḥi dri med yañ dag byañ chub mchog
⁽⁴⁾
 rtog pa |
 | rnam rtog dra ba thams cad spañs paḥi dri med śes zer gyis thob gyur nas |
 | gañ gis lhun gyis grub par phyogs bcu rnams su rab tu ston kyañ ḥkhor ba la |
 | der mi rtog pas gnas pa med ciñ sñiñ rje mya ñan ḥdas la mi gnas gañ |
 | thabs dañ śes rab chen pos yoñs su gzuñ bas bdag gshan don gyi mthar byon
 dañ |
 | gañ yañ dam paḥi chos gañ bcom ldan de yis yañ dag rtogs nas legs bstan pa |
 | gañ ḥdi legs par sgrub dañ ldan pa de yis bdud rtsiḥi⁽⁵⁾ go ḥphañ shi ba ḥthob |
 | gañ shig spoñ bar byed pa de ni sdug bsñal rgya mtshor yun riñ śin tu ḥbyiñ |
 | slob dañ mi slob ḥbras bu la gnas [P. 142 a] lam de nas soñ dge ḥdun gshan
 gyi mchog |
 | gañ shig bde gśegs dge ḥdun yon tan dri med rig paḥi brtul shugs kyis bsgrubs⁽⁶⁾
 pa |
 | bla med bsod nams shiñ la dge ba cuñ zad phra mo dag kyañ ḥdir byas na |
 | sa dañ nam mkhaḥ rgya che ba ltar mkhas pa rnams kyī⁽⁷⁾ thar pa sgrub par
 byed |
 | de dag la ni lus ḥag yid kyis lan cig min par gus pas phyag ḥtshal lo |
 | mkhas par rlom pa rañ gi rtog la brten pas luñ dañ rtogs pa dkrugs gyur ciñ |

(1) D. 121 b, P. 141 b³, N. 129 b⁶.

(2) D. bam bo dañ po, P.N. ナン。

(3) P.N. では(2)がこのところに入っている。

(4) P.N. rtog, D. rtogs.

(5) D. rtsiḥi, P.N. rtsi.

(6) P.N. bsgrubs, D. bsgrub.

(7) P. kyī, D. kyis.

154 a

聰明邪慢人 退阿含修得
 行說隨自執 正理非所證。
 事彌勒菩薩 依止日光定
 照了實法相 無動及出世
 爲我等宣說 正法眞道理
 如秋月日光 文詞遍於世。
 甚深大種種 句義依了經
 能令聰慧人 下心起尊敬。
 細密法難通 智無著無礙
 利等八世法 心常無染著
 無礙名稱義 通敏者恒誦
 天人普識知 頂禮大師足。
 辯說常無盡 雨甘露文義
 依尊隨分聞 猶如乞雨鳥。
 披閱決定藏 以釋攝大乘
 願此言利益 佈大文海人。

衆名品第一之一

釋曰。此品有三章、一無等聖教、二十義次第、三衆名。

無等聖教章第一

論曰。攝大乘論即是阿毘達磨教及大乘修多羅、

釋曰。此言依何義、因何而起。依一切所知依甚深廣大諸法實性。若離佛菩薩威力、何

〔序. 1〕

271 a

無等聖教章第一
 論曰。阿毘達磨大乘修多羅中、婆伽婆前善入大乘菩薩、爲顯揚大乘大體故、說所謂爲大乘故、諸佛世尊有二十種勝相勝語。

〔序. 1〕

依止無動出世間 放大法光三摩地
 闡揚妙法流清譽 如日舒光遍十方
 文光無垢最甚深 諸了義經所隨順
 廣大句義皆微妙 悉以綺飾自莊嚴
 能令聰敏者融心 無諂諂無僞生愛敬
 極難通法、慧無滯 不住利養稱譽中
 於樂常無染著心 故名決定稱自德
 諸賢聖者常親近 一切世間無不知
 無著名稱普皆聞 功德顯然同所讚
 無盡辯者等所雨 甘露文義、微妙法
 多從彼聞自力微 少受猶如乞雨鳥
 從廣決擇集少分 以言略釋攝大乘
 願此所作遍饒益 佈於極大文海者。

論曰。阿毘達磨大乘經中、薄伽梵前已能善入大乘菩薩、爲顯大乘體大故、說謂依大乘、諸佛世尊有二十相殊勝殊勝語。
 釋曰。依止何義、從何所因而作是說。廣博

| de ltar yañ dag dam chos tshul dkrugs pa la chos kyis rab tu snañ mdsad pañi |
 | tiñ ḥdsin mig yo ḥjig rten ḥdas la brten nas ḥphags pa byams pa la brñes pas |
 | sñon chad ma byuñ ba yi dam chos ston par mdsad pañi slob dpon la yañ ño |
 | ji ltar ñi ma phyogs rnam thams cad kun tu ḥod zer dra ba ḥgyed pa ltar |
 | gañ gis legs pañi grags pa gshuñ gi ḥod zer dri med rnam [D. 122 a] par spro
 byed de |
 | zab ciñ don che bzañ la sna tshogs tshig bzañ ñes [N. 130 b] pañi don gyi mdo
 las byuñ |
 | gañ shig skye bo mkhas pa rañ dgañ med pa drañ ba mñen shiñ gus par byed |
 | śin tu rtogs par dkar bañi chos de ñid lhañ gañ gi blo ni thogs med la |
 | rñed dañ grags pa dañ ni bstod dañ bde ba rnam lhañ chags pa rtag med pañi |
 | gañ gi miñ yañ yon tan rjes mthun ñer par mkhas pa dag gi rtag brjod de |
 | gañ shig thogs med ces ni mi dañ lha yis grags pañi yon tan rjod byed pa |
 | mi zad blo las dam chos tshig don bdud rtsiñi char ḥbab las phyogs gcig ñid |
 | thos te byiñu lta bur rañ gi nus pa cuñ shig gañ yañ ci gzuñ dañ |
 | bsdus ba gtan la [P. 142 b] dbab par śin tu rgyas par bstan las cuñ shig brjod par
 bya |
 | des kyañ la la śin tu rgyas pañi gshuñ gi rgya mtshas skrag pañi don byed srid |

[序. 1] [D. 1 b] | ⁽⁶⁾ **theg pa chen po la śin tu shugs pañi byañ chub sems dpas |
 theg pa chen poñi che bañi bdag ñid brjod pañi phyir | bcom ldan ḥdas kyi
 spyān sñar ḥdi lta ste | theg [P. 2 a] pa chen po las brtsams nas | chos mñon pa
 theg pa chen poñi mdo las | sañs rgyas bcom ldan ḥdas rnam kyi gsuñ khyad
 par rnam pa bcus khyad par du ḥphags pa [N. 2 a] gsuñs te |**

(1) P. N. gi, D. gis.

(2) P. par, D. pa.

(3) P. N. gi rtag, D. gis brtag.

(4) D. pa, P. N. pas.

(5) P. N. gzuñ, D. bzuñ.

(6) 撰論の巻頭に以下のような論名と帰命文があるが、釈論の巻頭とほとんど重複するので略した。

rgya gar skad du | Mahāyāna-saṃgraha | bod skad du | theg pa chen po bsdus pa | bam po
 dañ po | bcom ldan ḥdas ḥphags pa ḥod dpag tu med pa dañ | ḥjam dpal gshon nur gyur
 pa la phyag ḥtshal lo | |

人有二此功能能說三此義。云何造論由三此相一說。若離阿毘達磨名則不知三此論是聖教。爲三此義二故。又爲三顯經名一。譬如三十地經。

今造三此論三其用云何。衆生無知疑倒欲令得解。復次此論說阿毘達磨大乘修多羅名者。欲顯三如來法門別類一。及顯三此論別名。言三大乘一者。欲顯三小乘阿毘達磨。何故不三但說三阿毘達磨名。復說三修多羅名。有三阿毘達磨非三聖教。

復次說阿毘達磨名者。顯三此論是菩薩藏。

154b 復次立藏者。欲三何所爲。爲三滅三自惑於三大乘中一。是菩薩煩惱。何以故。諸菩薩以三分別一爲三煩惱。阿毘達磨者。甚深廣大法性爲相。

此菩薩藏凡有幾種。亦有三三種。謂修多羅、阿毘達磨、毘那耶。此三由三上下乘差別一故成三二種。謂聲聞藏菩薩藏。此三及二云何名藏。由三能攝一故。此攝三何法。一切應三知義。

云何成三。有三九因三別立。修多羅者。爲三對三治他疑惑。若人於三此義中起三疑。爲三令三得三決定智一故。立三修多羅。爲三對三治受用一三邊一故。別立三毘那耶一。由佛遮三有罪過一受用上立三毘那耶一。對三治樂行邊一。由佛隨三喜無三罪過一受用上。立三毘那耶一。對三治苦行邊一。爲三對三治自見取偏執一故。別立三阿毘達磨一。能顯三無倒

釋曰。問何爲造論。答爲三敷演。應三知三甚深寬大法性一故。若除三不承三佛菩薩力一。何人有三能於此解釋。復以三何義一故。此論作三如此相說。若離阿毘達磨言。則不知三聖說。爲三此義二故。又是出三經名。如三言三十地經。

今當釋三彼經名。爲三令三不知者令三知一故。言三阿毘達磨修多羅一者。彼修多羅中。明三此阿毘達磨法門一故。亦爲三顯三修多羅名一故。言三大乘一者。簡三異三聲聞阿毘達磨一故。亦有三非聖說阿毘達磨。

有三人自以三分別慧一謂是佛說阿毘達磨。或言三聲聞所說一或言三世智者所作一。爲三此故言三大乘修多羅。即顯三示異於聲聞等一故。復次言三阿毘達磨一者。顯三示菩薩藏攝一故。復次藏攝者。顯三示調三伏三煩惱一故。於三大乘中一。是菩薩煩惱。菩薩以三分別一爲三煩惱一故。阿毘達磨者。甚深寬大爲三相。

271b

此藏有三三種。謂修多羅、阿毘達磨、毘那耶。即此三上下乘別故爲三。謂聲聞藏、菩薩藏。復次此三及二。何故名藏。答由攝故。謂攝三一切所應三知義。

云何成三。有三九因緣一故。對三治諸疑一者修多羅。若人於三義有疑。爲三令三彼人於三彼義一得三決定一故說。對三治著三二邊一者毘那耶。遮三

321c

所知深大法性。若離諸佛菩薩威力。誰於此中能造三釋論。復由三何義一於三此論一初說三如是事由。若離三舉三阿毘達磨大乘經言一。則不三了三知論是聖教。爲三此義一故。又爲三顯經名一。如三言三十地經。故說三如是阿毘達磨大乘經言。復有三餘義。爲三顯三彼經是聖教一故。初說三如是阿毘達磨大乘經言。

今造三此論三有所用者。爲三欲三開三曉無知者一故。爲三顯三法門別名一故。舉三阿毘達磨。爲三顯通名一故。舉三經言。爲三簡三聲聞阿毘達磨一。復舉三大乘。由三今亦有三非聖所說三阿毘達磨。如三現有人自尋思慧。謂是佛說阿毘達磨或聲聞說或世智造。又言三大乘素怛纒者。爲三欲三顯三示異三聲聞等。

爲三欲三顯三示菩薩藏攝一故。復舉三其阿毘達磨。又藏攝者。謂入三自宗素怛纒藏。現滅三自惑。毘奈耶藏即大乘中菩薩煩惱。以三諸菩薩種種分別一爲三煩惱一故。不三違三最勝。阿毘達磨廣大甚深爲三其相一故。

此中三藏者。一素怛纒藏。二毘奈耶藏。三阿毘達磨藏。如是三藏下乘上乘有差別一故。則成三二藏。一聲聞藏。二菩薩藏。此三及二何緣名藏。由三能攝一故。謂攝三一切所應三知義。復由三何緣一建立三藏。由三九種緣。謂爲三對三

| ḥḍi ltar sañs rgyas bcom ldan ḥḍas rñams kyi gsuñ khyad par rñam pa bcus khyad
 par du ḥphags pa gsuñs te shes bya ba don ci las brtsams nas rgyu gañ gis brjod na
 | śin tu yañs paḥi śes bya chos kyi rañ bshin zab cid rgya che ba ñid sañs rgyas dañ
 byañ chub sems dpaḥi mthus brjod kyi gshan du na ga la nus | yañ gañ gis na bstan
 bcos ḥḍi rim pa ḥḍi ltar bstan na gañ gi phyir chos mñon pa smos pa med na ḥḍi gtsug
 lag ñid du mi śes pas des na deḥi phyir dañ | mdoḥi miñ bstan paḥi phyir te | sa bcu
 pa bshin du chos mñon pa theg pa chen poḥi mdo shes bstan to | | gshan yañ gtsug
 lag ñid du śes par bya baḥi phyir chos mñon pa shes byaḥo | | da ni mdo brtsams
 paḥi dgos pa ni ma rtogs pa rñams kyis rtogs par bya baḥi phyir te | chos mñon paḥi
 mdo smos pa ni ḥḍis chos kyi rñam grañs brjod par bya baḥi don dañ | mdoḥi miñ
 bstan paḥi phyir ro | | theg pa chen po smos pa ni yañ ñan thos kyi chos mñon pa bsal
 baḥi phyir te | [N. 131 a] gañ gi phyir chos mñon pa kun gtsug lag ma yin no | | shes
 lag par rtog paḥi phyir ro | | de yañ kha cig rañ gi rtog paḥi blo dag gis chos mñon
 pa sañs rgyas kyis gsuñs par ḥḍod do | | kha cig ni ñan [D. 122 b] thos kyis bstan pa
 dañ | mkhas pa dag gis byas par ḥḍod do | | theg pa chen poḥi mdo shes bya ba ḥḍis
 ni ñan thos la sogs pa las khyad par du ḥphags pa ñid ston to | | yañ chos mñon pa
 smos pas ni byañ chub sems dpaḥi sde snod gzuñ ño | [P. 143 a] | yañ byañ chub sems
 dpaḥi sde snod bzuñ bas ni rañ gi theg pa chen po las rañ gi ñon moñs pa ḥḍul bar yañ
 dag par snañ ño | | gañ theg pa chen por byañ chub sems dpaḥ ranms kyi ñon moñs pa
 ni rñam par rtog pa ñid ñon moñs pa yin pas byañ chub sems dpaḥi chos mñon pa ni
 rgya che shiñ zab paḥi mtshan ñid can ñid do | | de la sde snod gsum ni mdo sde
 dañ | ḥḍul ba dañ | mñon paḥo | | gsum po de dag ñid theg pa dman pa dañ | theg pa
 mchog gi bye brag gis gñis su ḥgyur te | ñan thos kyi sde snod dañ | byañ chub sems
 dpaḥi sde snod do | | yañ de ni gsum yañ ruñ gñis kyañ ruñ ste | ciḥi phyir sde snod
 ces bya na | bsḍus paḥi phyir te | śes bya ma lus paḥi don bsḍus pa ñid kyis so | | rgyu

(1) P. N. pas, D. pa.

(2) D. N. brtsams, P. brtsam.

(3) P. N. bsal, D. btsal.

(4) P. N. pas, D. pa.

(5) D. gzuñ, P. N. bzuñ.

(6… …6)長尾本 p. 132 注(1)参照。

大乘莊嚴經論 Sūtrāḥ. I. II (梵文 p. 5, 1. 5-8.)

(7) 長尾本 p. 132 注(4)より、以下三蔵の解釈。

Sūtrāḥ. XI. 1-4 (梵文 p. 53-55) の文とほぼ合致する。

(8) D. sde, P. N. ナン。

實法相二故。

復次爲說三種修學二故、別立修多羅、爲成依戒依心學故、別立毘那耶。何以故、若人持戒則心無悔。由無悔等、能次第得定。爲成依慧學二故、別立阿毘達磨。何以故、能簡擇無倒義二故。

復次正說法及義、由修多羅、成就法義、由毘那耶。何以故、若人修行或毘那耶、得通達此二法及義。法義決定勝智由阿毘達磨。由此九因緣一故立三藏。

此三藏通用云何。爲解脫生死是其通用。云何得解脫。能熏、覺、寂、通故得解脫。由聞思三藏二故、能熏、由熏故覺、由覺故寂、由寂故通、由通故、得解脫。

若略說三藏各有四義。菩薩若能了別此義、則具一切智。若聲聞能了二句一偈義、則至流盡。

云何一二藏各有四義。修多羅四義者、一依二相三法四義。能顯示此四義故名修多羅。依者是處是人是用。依此三佛說修多羅故名依。相者謂真俗二諦相故名相。法者陰、界、

入、緣生、諦、食、定、無量、無色、解脫、制入、遍入、助道、無礙辯、無諍等故名法。義者、所作事故名義。生道滅惑是事。

有罪過受用二故。謂著欲樂邊。聽無罪過受用二故。遮自疲苦邊。對治自見著者、阿毘達磨。由顯無倒相二故。

復次說三學者修多羅。具足增上戒增上心者毘那耶。由持戒二故、得不悔等次第得三磨提、具足增上慧者阿毘達磨。簡擇無倒義二故。

復次說法及義二者修多羅。成就法義二者毘那耶。若修行人調伏煩惱、於中得通達二故。於法義決定善巧者阿毘達磨。由此等九因緣一故立三藏。

此等皆爲解脫生死二故。復次云何得解脫。熏、知、寂、通故得解脫。由聞故熏於心、由思故知、於修中奢摩他故寂靜、毘鉢舍那故通達。

此修多羅、毘那耶、阿毘達磨、略說各有四義。菩薩解此則得一切智。聲聞隨解二偈義、則得流盡。

云何各有四義。一依二相三法四義。貫穿此三者修多羅。於中依者、依處依人依所爲故說。相者、世諦相第一義諦相。法者陰、界、入、緣生、諦、念、定、無量、無色、解脫、勝處、一切處、菩提分、辯才、無諍等。義者、隨順相續故。

治疑惑立素怛纒藏。若於彼彼義中一有疑惑者、卽爲決定宣說彼彼義二故。爲對治二邊受用立毘奈耶藏。謂遮有罪著欲樂邊受用上故、及開無罪不自苦邊受用上故。爲對治自見取執立阿毘達磨藏。顯照諸法無倒相二故。

又能說三學者故立素怛纒藏。能成辦增上戒增上心一故立毘奈耶藏。謂具三尸羅卽無悔等、漸次能得三摩地二故。能成辦增上慧一故立阿毘達磨藏。謂能決擇無倒義二故。

322 a
故立毘奈耶藏。謂爲調伏煩惱勤修行者、便於此二能通達故。能於法義決擇善巧故立阿毘達磨藏。由此九緣一許立三藏。

又此皆爲解脫生死。此復云何能得解脫。熏、覺、寂、通故得解脫。謂由聞熏習心二故、由思覺悟故、由修奢摩他寂靜故、由證毘鉢舍那一通達故、能得解脫。

又若略說此素怛纒、毘奈耶、阿毘達磨藏各有四義。菩薩於此若具了知則能證得一切智性、聲聞於此雖解了一伽他義亦得漏盡。云何此三各有四義、謂能貫穿。依故、相故、法故、義故名素怛纒。此中、依者、謂於是處由此、爲此而有此所說。相者、謂世俗諦

gañ gis gsum yin na rgyu dgu ste | the tshom gyi gñen po yin pas na mdo sde ste |
gañ don gañ la the tshom za ba deñi don de ñes par bstan pañi phyir ro | | mthañ
gñis su sbyor bañi gñen pos na ðdul ba ste | kha na ma tho ba dañ bcas pañi loñs
spyod bkag pas ðdod pañi bsod nams la sbyor bañi mthañ spoñ ba ñid dañ | kha na
ma tho ba med pañi loñs spyod rjes su gñañ bas bdag ñid ñal pañi mthañ la sbyor
ba spoñ bañi phyir ro | | bdag gi lta ba mchog tu ðbsin pañi gñen pas [N. 131 b] na
chos mñon pa ste | phyin ci ma log pañi chos kyi mtshan ñid gsal bar byed pañi
phyir ro | | yañ bslab pa gsum ston pas na mdo sde ðo | | lhag pañi tshul khriims
dañ | lhag pañi sems yañ dag par sgrub pas ðdul ba ste | tshul khriims dañ ldan pa
ni ðgyod pa las rab tu ðdañ bas tiñ ñe ðdsin ðthob pañi phyir ro | | lhag pañi śes
rab yañ dag par [P. 143 b. 欠] skrab pas chos mñon pa ste | phyin ci ma log pañi don
la rab tu rtog pañi phyir ro | | yañ chos dañ don rtogs pas mdo sdeño | chos dañ
don sgrub pas ðdul ba ste | ñon moñs pa ðdul ba dañ ldan pa ni de rtogs pa las so |
| chos dañ don rnam par gtan la dbab pa [D. 123 a] la mkhas pas na chos mñon pa
ste | rgyu dgu po de dag gis na sde snod ni gsum du ðdod do | | de dag gis kyañ
ñkhor ba las rnam par grol bar byed pañi phyir ro | | yañ ji ltar na de dag gis rnam
par grol bar byed ce na | bsgo ba dañ | rtogs pa dañ | ðjil ba dañ | rab tu ðbyed pas
rnam par grol bar byed pa ñid do | | thos pas ni sems la bsgo ba ñid do | | bsam
pas ni rtogs pa ñid do | | shi bañi don tu sgom pañi phyir ðjil ba ñid do | | lhag
mthoñ gis ni rab tu ðbyed pa ñid do | | mdor bsdu na mdo sde dañ | ðdul ba dañ |
chos mñon pa de dag so so shiñ don rnam pa bshi ste | byañ chub sems dpañ de rnams
rtogs na thams cad mkhyen pa ñid thob par ðgyur ro | | ñan thos kysis ni tshigs su
bcad pa gcig gi don śes pas kyañ zag pa zad pa ðthob po | | ji ltar so so shiñ don
rnam pa bshi yin she na | gnas dañ mtshan ñid dañ | chos dañ don mdor ston pas
na | mdo sdeño | | de la gnas ni yul gañ du gañ gis gañ la bstan paño | | mtshan ñid

(1) P. N. nams, D. ñams.

(2) D. las, P. la.

(3) P. 143 b の箇所にて P. 142 b が重複して、p. 143 b は欠けている。

(4) N. rtog, D. rtogs.

(5) D. dañ, N. dag.

(6) D. pa las, N. pas.

(7) D. bsgo, N. sgo.

(8) D. pas, N. pas na.

(9) D. bsdu, N. bsdus.

(10) 長尾本 ji, D. N. de.

阿毘達磨四義者、一對二數三伏四解。對者、是法對、向無住處涅槃。何以故、能顯諦道門、故名對。數者、諸法中隨二法、或以名、或以別相、或以通相等、數數顯此一法、故名數。伏者、此法能伏諸說。立破二能由正說、依止等方便、故故名伏。解者、由阿毘達磨、修多羅義易解故名解。

毘那耶有四義三者、一由罪過、二由緣起、三由還淨、四由出離。罪過者、謂五篇七聚罪。緣起者、或四或八。四者一無知二放逸三煩惱熾盛四輕慢。八者一由心不淨、二由身不淨、三由口不淨、四由心身不淨、五由身口不淨、六由心口不淨、七由身口心、八不由身口心。還淨者、由善心不淨治罰。善心者如本受持對治。出離者、有七事。一各各發露遮相續。二受與學罰。三先制後開、先已制、後由別意故開。四更捨、若大眾、聚集同意如本、更捨、先犯罪人是時還淨。五轉依、比丘比丘尼轉男女二根、若不共罪。六如實觀、由四種法觀陀那觀察諸法、又如對治法相、恒觀察自罪。七法爾得、若見四諦、小隨小罪不更故犯、由法爾所得。復次毘那耶有四義。應知、一人、佛世尊、

一向二數三伏四普集、應知此是阿毘達磨。向者、阿毘達磨是向無住處涅槃法、說諦普提分解脫等門。故。數者、阿毘達磨是數法、於一法中決了其自相通相等差別。有無量說。故。伏者、阿毘達磨是伏他法、能伏他論。由具立宗等。故。普集者、由阿毘達磨、普集修多羅義。故。

271 c

復次毘那耶四者、一罪過、二緣起、三還淨、四出離、應知。於中、罪過者、謂五篇罪。緣起者、起罪有四、一無知、二放逸、三煩惱熾盛、四不尊重。

還淨者、由淨心非治罰法。如禁戒攝持故。出離者、有七種。一自說發露、二與學等治罰、三一向禁斷立學句。復以別道理。故。四已解、謂眾僧同意共解。五轉身、謂比丘比丘尼轉男女根若不共罪。六真實觀、由作法毘陀那勝觀。故。七法爾得、謂得見諦已、小罪及隨小罪、法爾無有故。

復次毘那耶有四義、應知。一人、謂依此立學處。二立制、謂如所白彼人罪過、大師集眾制學處。三分別、謂制學句已隨更解釋。令分分差別。四決判、謂於彼分中云何得罪。云何無罪、令決定知。故。

今當釋本文。婆伽婆前者、為顯恭敬無異

相、勝義諦相。法者謂蘊、界、處、緣起、諦、食、靜慮、無量、無色、解脫、勝處、遍處、菩提分、無礙解、無諍等。義者、謂隨密意。對故、數故、伏故、通故、應知名阿毘達磨。謂阿毘達磨亦名對法、此法對向無住涅槃、能說諦、菩提分、解脫門等。故。阿毘達磨亦名數法、於一法一數數宣說訓釋言詞自相共相等無量差別。故。阿毘達磨亦名伏法、由此具足論處所等能勝伏他論。故。阿毘達磨亦名通法、由以此能解通素恒續義。故。

犯罪故、等起故、還淨故、出離故、應知名毘那耶。此中犯罪者、謂五眾罪。等起者、謂無知故、放逸故、煩惱熾盛故、不尊敬故、而犯諸罪。

還淨者、謂由意樂不淨治罰如受律儀。出離者、有七種。一各各相對說悔所犯。二誓受治罰、謂授學等。三等有妨害、先制學處、後由異門還復開許。四別更止息。謂僧和合還捨所制。五轉依、謂必芻芻尼轉男女形一故、捨不共罪。六由真實觀、謂作殊勝法嗢怛南語行相觀。七由法爾得、謂由見諦、法爾得無小隨小罪。

322 b

應知毘那耶復有四義。一補特伽羅故、世尊依彼制所學處。二制立故、謂告曰彼補特

ni kun rdsob kyi bden paḥi mtshan ñid dañ | don dam paḥi bden paḥi mtshan ñid
 do | | chos ni phuñ po dañ | skye mched dañ | khams dañ | rten ciñ ḥbrel par ḥbyuñ
 ba dañ | zas dañ | bsam [N. 132 a] gtan dañ | tshad med pa dañ | rnam par thar pa
 brgyad dañ | zil gyis gnon paḥi skye mched dañ | zad par gyi skye mched dañ | byañ
 chub kyi phyogs dañ | [P. 144 a] so so yañ dag par rig pa la sogs paḥo | | don ni rjes
 su brjod paḥo | | mñon du phyogs paḥi phyir dañ | yañ dañ yañ du ston paḥi phyir dañ
 | zil gyis gnon paḥi phyir dañ | mñon par rtogs paḥi phyir chos mñon par rig par bya
 ste | mi gnas paḥi mya ñan las ḥdas pa la mñon du phyogs paḥi chos ni chos mñon paḥo
 | | bden pa dañ | byuñ chub kyi phyogs dañ | rnam par thar paḥi sgo la sogs pa yañ
 dañ yañ du ston paḥi chos ni chos mñon pa ste | chos re re shiñ yañ ñes paḥi tshig dañ
 | rañ gi mtshan ñid dañ | spyiḥi mtshan ñid la sogs pa rab tu dbye ba mañ pos ston
 paḥi phyir ro | | zil gyis gnon pas na ches mñon pa ste | phas kyi rgol ba ḥdod paḥi
 dbañ du byas nas zil gyis gnon pa ñid do | | mdo [D. 123 b] sdeḥi don ḥdis rtogs par
 byed pas na yañ chos mñon paḥo | | yañ ḥdul ba ni ltuñ ba dañ | kun nas ḥbyuñ
 ba dañ | ldañ ba dañ | ñes par ḥbyuñ bar rig par byaḥo | | de la ltuñ ba ni ltuñ ba
 ris lñaḥo | | kun nas ḥbyuñ ba ni ltuñ ba mi śes pa ñid dañ | bag med pa ñid dañ |
 ñon moñs pa mañ ba dañ | ma gus pa las so | | ldañ⁽³⁾ ba ni ji lta ba bshin du sdom
 pa ḥdsin paḥi bsam pas yin gyi | chad paḥi las kyis ni ma yin no | | ñes par ḥbyuñ
 ba ni rnam pa bdun te | so sor ḥchags⁽⁵⁾ ltuñ bar mthoñ ba dañ | bslab pa sbyin pa la
 sogs paḥi chad paḥi las dañ | nañ khirms kyis te | bslab paḥi gnas bcas pa la yañ rim
 gyis rjes su gñañ ba la brten nas dge ḥdun blo mthun pas rab tu bcas paḥi bslab paḥi
 gshi rjes su gñañ ba ñid dañ | rten gnas gyur pa ñid kyis te | dge sloñ dañ dge [N.
 132 b] sloñ ma bud med dañ skyes pa ñid du mtshan gyur pas thun moñ ma yin paḥi
 [P. 144 b] bye brag dag go | | ltuñ baḥi de kho na ñid [so sor rtog pa ni] chos kyi
 skyed mos tshal gyi rnam pas so sor rtog paḥi khyad par dañ | chos ñid rab tu rtogs
 pas bden pa mthoñ ba ñid kyis ltuñ ba phra shiñ phra ba dag las ñes par ḥbyuñ
 ño | | yañ don rnam pa bshis na ḥdul bar rig par bya ste | gañ zag ñid ni gañ la

(1) P. N. ba, D. bar.
 (2) P. N. ba, D. baḥi.
 (3) P. N. ldañ, D. ltuñ.
 (4) D. N. pas, P. pa.
 (5) P. N. ḥchags, D. chags.
 (6) 長尾本 p. 142 注(12)。

依此立戒。二立制、已說過失、大師集、立學處。三分別。已略立制、更廣解釋。四決判、此立制中、云何犯罪、云何不犯。今當釋本文。

論曰。佛世尊前、

155 a 釋曰。欲顯恭敬及無異言。

論曰。善入大乘句義、菩薩摩訶薩、

釋曰。已得陀羅尼等功德、由此功德於文句及義、善能攝持、又能如理顯說故名善入。何故但言菩薩摩訶薩而不說名。欲顯諸菩薩摩訶薩衆、通有此能。何故說兩名。欲顯具足二行。

論曰。欲顯大乘有勝功德、依大乘教、

釋曰。唯大乘中有勝功德、餘乘中無、爲明大乘不共德故、言欲顯大乘有勝功德、依大乘教。

論曰。說如是言、諸佛世尊有十勝相、所說無等過於餘教。

釋曰。此言欲何所明。爲顯大乘有勝功德。爲實有及利他故。諸佛世尊如十號中解。

論曰。十勝相者、

釋曰。由依止等十相異故勝。十義爲因、言說爲果。以義勝故所說無等。

論曰。一應知依止勝相、

〔序。2〕

言故。善入大乘者、謂得陀羅尼等功德。顯示得彼功德已。於文於義、能正持正說故。此菩薩名善入大乘。何爲而說、爲顯發大乘大體故。顯發者、廣說彼大體故。所謂爲大乘故者、依於大乘故。十種勝相勝語者、十相勝故。所以語勝、由此故彼有十種勝相勝說。復次勝語者、兩相形故如此物。勝過於彼。最上義是勝義。復次由因體勝故。彼果語勝。今當說彼十種。

論曰。諸佛世尊有應知依止勝相勝語、應知勝相勝語、入應知勝相勝語、彼入因果勝相勝語、彼因果修勝相勝語、於彼修差別中、增上戒勝相勝語、增上心勝相勝語、增

〔序。2〕

伽羅所犯過已大師集僧制所學處。三分別故、謂制學處。已更廣解釋先所略說。四決擇故、謂於此中一決判所犯云何有罪、云何無罪。

今當釋本文。薄伽梵前者、顯有所敬故無異言。

善入大乘者、是由已得陀羅尼等勝功德義。顯已得此諸功德故。於義於文能正任持、能正開示、如是名菩薩。

爲何義故說。爲顯大乘體大故說。所言顯者、開發大乘實有大體。依大乘者、依止大乘而起所說。

有十相殊勝、殊勝語者、謂即由彼十種殊勝所、殊勝語。名十相殊勝、殊勝語。

此殊勝言是差別義兩互相待。如言此義殊勝於彼。又最上義是殊勝義。

或是異類、謂義因殊勝故、語果是殊勝。今當說此十種別相。

論曰。一者所知依殊勝殊勝語、二者所知相殊勝殊勝語、三者入所知相殊勝殊勝語、四者彼入因果殊勝殊勝語、五者彼因果修差別殊勝殊勝語、六者即於如是修差別中增

brten nas bslab pa bcas paḥo | | gañ zag gi ñes pa gañ gis shus pa na | deḥi dbañ
 gis dge ḥdun thams cad ḥdus nas bslab pa bcas pas⁽¹⁾ na bcas paḥo | | rab tu dbye ba
 ni bslab paḥi gshi bcas pa de rnam par phye nas gtan la phab paḥo | | ñes par gzuñ
 ba ni de la ji ltar ltuñ ba dañ | ltuñ ba med par ñes par gzuñ baḥo | | da ni rtsa
 baḥi gshuñ brtsam par bya ste | bcom ldan ḥdas kyi spyān śnar shes bya ba ni ḥbad
 pa dañ gus par bcas pas tshig gshan du ma yin paḥi don to | | theg pa chen po la
 śin tu shugs paḥi shes bya ba ni gzuñs la sogs paḥi yon tan rab tu thob pa shes bya
 baḥi don te | yon tan de dag thob pas kyañ don dañ tshig yañ dag par ḥdsin pa dañ
 | rab tu ston pa ñid du ḥdis bstan paḥam | de lta buḥi miñ can gyi byañ chub sems
 dpas so | | ciḥi phyir brjod na | theg pa chen poḥi che baḥi bdag ñid brjod paḥi phyir
 te | de la brjod pa [D. 124 a] ni theg pa chen po che baḥi bdag ñid rab tu bstan paḥo
 | | ḥdi lta ste | theg pa chen po las brtsams nas shes bya ba ni deḥi dbañ du byas
 nas so | | gsuñ khyad par rnam pa bcus khyad par tu ḥphags pa shes bya ba la |
 khyad par rnam bcus khyad par tu ḥphags paḥi gsuñ gañ la mñañ ba de ni gsuñ
 khyad par rnam pa bcus khyad par du ḥphags paḥo | | gañ gshan yañ khyad par du
 ḥphags paḥi sgraḥi don ni mthog gi don tu | de lta bu ni [P. 145 a] khyad par du
 ḥphags paḥi don [N. 133 a] to |

[序. 2] | ḥdi lta ste | (1) sañs rgyas bcom ldan ḥdas rñams kyi gsuñ śes⁽⁴⁾ byaḥi
 gnas kyi khyad par gyis khyad pa du ḥphags pa dañ | (2) sañs rgyas bcom
 ldan ḥdas rñams kyi gsuñ śes⁽⁵⁾ byaḥi mtshan ñid kyi khyad par gyis khyad
 par du ḥphags pa dañ | (3) śes byaḥi mtshan ñid la ḥjug paḥi khyad par gyis
 khyad par du ḥphags paḥi gsuñ dañ | (4) ḥjug⁽⁷⁾ [D. 2 a] pa deḥi rgyu dañ ḥbras
 buḥi khyad par gyis khyad par du ḥphags paḥi gsuñ dañ | (5) deḥi rgyu dañ⁽⁸⁾
 ḥbras bu bsgom pa rab tu dbye baḥi [N. 2 b] khyad par gyis khyad par du ḥphags
 paḥi [P. 2 b] gsuñ dañ | (6) sgom⁽⁹⁾ pa rab tu dbye ba de nid la lhag paḥi tshul khriṃs

(1) D. pas, P. N. pa.

(2) 長尾本 p. 132 注(時)。Sūtrāḥ XI. 1-4 の引用終る。

(3) P. N. poḥi, D. po.

(4) P. N. śes, D. shes.

(5) (1)同。

(6) D. N. par, P. ナン。

(7) P. N. ḥjug, D. de la ḥjug.

(8) D. rgyu, P. rgyud.

(9) P. N. sgom, D. bsgom.

釋曰。應知者、謂淨不淨品法、即是三性。此三性依止三性因。即是勝相。由此依止勝相、如來言說亦勝。即是阿黎耶識依止、即是勝相。譬如三石子。乃至、智果勝相亦如是。

論曰。二應知勝相、

釋曰。應知勝相者、謂應知自性。或應知即是相。

論曰。三應知入勝相、

釋曰。應知謂三性。入者、謂能成入及所成入、即是唯識。

論曰。四入因果勝相、

釋曰。入唯識因即是施等世間六波羅蜜、在願樂位中。入果即入唯識。後六波羅蜜在三通達位中、轉成果名出世間。

論曰。五入因果修差別勝相、

釋曰。入因果即世出世六波羅蜜。修者謂四德數習。此修地地不同故名差別。即是歡喜等十地。

論曰。六於修差別依戒學勝相、

釋曰。謂於修差別諸地中戒學。依戒菩薩修觀。即十地中菩薩一切戒、於諸惡法無復作心。

論曰。七此中依心學勝相、

釋曰。學義如前解。心即是定。定以二心一

上慧勝相勝語、滅勝相勝語、智勝相勝語。

如是等所說修多羅句顯於大乘。是佛語。

272 a 釋曰。應知依止勝相勝語者、所可知。法名一應知。謂彼染淨等法即是三性。依止者是因義。應知依止即是勝相故、言應知依止勝相。

由彼勝相故語勝。即是阿梨耶識。如是等略釋義。乃至、智勝相亦爾。智即勝相故、言智勝相。

應知相者、謂應知自性。應知即是相故、言應知相。即是三性。

入應知勝相者、此應知相中、若所入及能入。俱名入。即是唯識。即此入名彼入。

言彼入因果者、唯識名入。因者、謂世間施等諸波羅蜜。即是加行時。果體者、即此通達時為出世間體一故。

彼因果修差別者、即是前因果於此因果中、修之差別。修者、謂數習故。此數習於諸地轉勝故、名差別、即是十地。

於此修差別中、增上戒學者、為戒修學名增上戒、即是十地中、所有菩薩禁戒、於諸不善無復作心故。

增上心學者、內觀心、此心即是增上學、謂三摩提故。

增上慧學者、勝得慧名增上慧。此慧即是增

上戒殊勝勝語、七者即於此中增上心殊勝殊勝語、八者即於此中增上慧殊勝殊勝語、九者彼果斷殊勝勝語、十者彼果智殊勝勝語。由此所說諸佛世尊契經諸句。顯於大乘真是佛語。

釋曰。此中所知依殊勝勝語者、所應可知故名所知。所謂雜染清淨諸法即三自性。依是因義。此所知依即是殊勝故名所知依殊勝。由此殊勝故語殊勝。此依即是阿賴耶識。如是持業釋、乃至彼果智殊勝亦爾、謂彼果智即是殊勝故名彼果智殊勝等。

所知相者、是所知自性義。所知即是相故名所知相。謂三自性。

入所知相者、謂於所知相若能入若正入即唯識性。

彼入因果者、謂能入彼故名彼入、即是悟入唯識理性。因謂加行時世間施等波羅蜜多。果謂通達時出世施等波羅蜜多。

彼因果修差別者、即彼因果故名彼因果。即於此中修之差別。修謂數習、即此數習於諸地中展轉殊勝故。名差別即是十地。

即於如是修差別中、增上戒者、謂十地中依戒而學故名增上戒、即諸菩薩所有律儀於諸不善無復作心。

322 c 故名所知。所謂雜染清淨諸法即三自性。依是因義。此所知依即是殊勝故名所知依殊勝。由此殊勝故語殊勝。此依即是阿賴耶識。如是持業釋、乃至彼果智殊勝亦爾、謂彼果智即是殊勝故名彼果智殊勝等。

所知相者、是所知自性義。所知即是相故名所知相。謂三自性。

入所知相者、謂於所知相若能入若正入即唯識性。

彼入因果者、謂能入彼故名彼入、即是悟入唯識理性。因謂加行時世間施等波羅蜜多。果謂通達時出世施等波羅蜜多。

彼因果修差別者、即彼因果故名彼因果。即於此中修之差別。修謂數習、即此數習於諸地中展轉殊勝故。名差別即是十地。

即於如是修差別中、增上戒者、謂十地中依戒而學故名增上戒、即諸菩薩所有律儀於諸不善無復作心。

kyi khyad par gyis khyad par du ḥphags paḥi gsuñ dañ | (7) lhag paḥi sems kyi
 khyad par gyis khyad par du ḥphags paḥi gsuñ dañ | (8) lhag paḥi ⁽¹⁾śes rab kyi
 khyad par gyis khyad par du ḥphags paḥi gsuñ dañ | (9) deḥi ḥbras bu spañs
 paḥi khyad par gyis khyad par du ḥphags paḥi gsuñ dañ | (10) deḥi ḥbras bu ye
 śes kyi khyad par gyis khyad par du ḥphags paḥi gsuñ ño |
^{(2…} | sañs rgyas bcom ldan ḥdas rnam kyis mdo sdeḥi tshig bstan pa ḥdi ni theg
^{…2)}
 pa chen po sañs rgyas kyi bkaḥ ñid du brjod paḥo |

| de la śes byaḥi gnas kyi khyad par gyis khyad par du ḥphags paḥi gsuñ shes
 bya ba la | śes par bya bas na śes byaḥo | | de yañ kun nas ñon moñs pa dañ | rnam
 par byañ ba pa ste | de yañ ño bo ñid gsum mo | | deḥi gnas ni rgyu shes bya baḥi
 don to | | khyad par du ḥphags paḥi gsuñ shes bya ba de yañ kun gshi rnam par śes
 pas so | | ḥdi ni las ḥdsin pa ste | śes bya ji sñed ba ñid kyi khyad par yin pas śes
 byaḥi khyad par ro |

| śes byaḥi mtshan ñid ni śes byaḥi ño bo shes bya baḥi don te | śes byaḥi mtshan
 ñid ni śes byaḥi mtshan ñid de | ño bo ñid gsum mo | ⁽⁴⁾

| śes byaḥi mtshan ñid de la ji ltar ḥjug par ḥgyur ba ḥam | gañ gis ḥjug par ḥgyur
 ba ste | rnam par śes pa tsam mo | | der ḥjug pa ni de la ḥjug paḥo |

| ḥjug pa deḥi rgyu dañ ḥbras bu shes bya ba la rnam par śes pa tsam la ḥjug pa ni
 ḥjig rten paḥi sbyin pa la sogs pa pha rol tu phyin pa la sbyor baḥi dus su ni rgyuḥo
 | | de dag ñid mñon du gyur ciñ ḥjig rten las ḥdas par gyur pa ni ḥbras buḥo |

| deḥi rgyu dañ ḥbras buḥi sgom pa rab tu dbye ba shes bya ba la | deḥi rgyu
 dañ ḥbras bu ñid ni deḥi rgyu dañ ḥbras buḥo | | deḥi rgom paḥi rab tu dbye ba ni
 sgom pa goms pa ste | deḥi goms pa ni saḥi khyad par gañ yin paḥo | | deḥi bya ba ni
⁽⁶⁾ sa dag paḥo | ^{(5…}
^{…5)}

| sgom pa rab tu dbye ba de ñid la lhag paḥi tshul khrims shes bya ba la | tshul
 khrims kyi dbañ du byas paḥi bslab pa ni lhag paḥi tshul khrims te | bslab pa de yañ
 byañ chub sems dpaḥi sgom pa gañ mi dge baḥi chos mi byed paḥi sems so | ⁽⁷⁾

(1) D. P. kyi, N. kyis.

(2… …2) D. による。P. N. mdoḥi tshig. 真諦訳, 玄奘訳は D. と一致し, 笈多訳は P. と一致する。

(3) P. N. byañ ba pa, D. byañ ba.

(4) P. N. te, D. to.

(5… …5) 長尾本 p. 150 注(16), deḥi śes bya ba ni sa dag laḥo と改むべきかとある。

(6) P. N. sa, D. yañ.

(7) D. N. la, P. ḥam.

〔序. 3〕

爲體、依二心修習。謂一切菩薩定名依心學。

論曰。八此中依慧學勝相、

釋曰。爲能得果名依慧。以慧爲依止。

發修行心。是依慧即是無分別智。

論曰。九學果寂滅勝相、

釋曰。謂滅差別有三種。一最勝、二品類、

三對解脫定智。障滅即是無住處涅槃。

論曰。十智差別勝相。

釋曰。謂已離一切障智。智即無分別智、名

對治道差別。即佛如來智已離一切隨眠障。此

智無分別智差別。

論曰。由此十義勝相、如來所說過於餘

教。如此釋修多羅文句顯於大乘真是佛

說。

釋曰。云何能顯。由此略釋文句顯十義於

小乘中無、唯大乘說。

論曰。復次云何此中略釋能顯大乘勝於餘

教。〔今〕、此略釋顯斯十義、唯大乘有、

小乘中無。何者爲十。謂阿黎耶識說名應

知依止相三種自性、一依他性、二分別性、

三眞實性、說名應知相。唯識教說名應知

入相。六波羅蜜說名入因果相。

釋曰。何以故、由唯識道得入三性。願樂

〔序. 3〕

上學。增上慧學即是無分別智故。

滅勝相者、謂最勝種類自體滅於煩惱障智障

故。即是無住處涅槃故。智勝相勝語者、無障

礙智名智勝相。彼無分別智有對治。

佛智者、離一切隨眠障。即是無分別智之殊

勝。

〔序. 3〕

增上心者、謂在內心、或即依心而學故名增上心、即諸三摩地。

增上慧者、謂趣證慧故名增上慧。或依慧

而學故名增上慧、即是無分別智。

斷殊勝者、謂最勝品別自內棄捨煩惱及所知

障、即是無住涅槃。

智殊勝殊勝語者、謂無障智名智殊勝、彼無

分別智有所對治。今此佛智、已離一切障及

隨眠、是名於彼無分別智佛智殊勝。

論曰。復次云何顯發。此等所說十處、聲聞

乘中不說、唯大乘中說故。所謂阿黎耶識

說爲應知依止體。三種自性、分別、依止他、

成就說爲應知相體。唯識說爲入應知相體。

六波羅蜜說爲入因果體。菩薩十地說爲入

因果修差別體。菩薩禁戒說爲增上戒體。健

行及虛空器等三摩提說爲增上心體。無分

323 a

說名所知相體。唯識性說名入所知相體。

六波羅蜜多說名彼入因果體。菩薩十地說

名彼因果修差別體。菩薩律儀說名此中增

272 b

| **lhag paḥi sems shes** bya ba la | [P. 145 b] nañ gi sems ni lhag paḥi sems sam | sems
ñid [D. 124 b] kyi dbañ du byas paḥi bslab pa ni lhag paḥi sems [N. 133 b] te tiñ ñe ḥdsin
no |

| **lhag paḥi śes rab** ces bya ba la | mñon par rtogs par byed paḥi śes rab ni lhag paḥi
śes rab bam | śes rab ñid kyi dbañ du byas paḥi bslab pa ni lhag paḥi śes rab ste | de
yañ rnam par mi rtog paḥi ye śes so |

| **spañs paḥi khyad par** shes bya ba la | khyad par du ḥphags paḥam | rab tu dbye
bas sam | so so rañ gi rig pas ñon moñs pa dañ | śes byaḥi sgrib pa spañs pa ste | de
yañ mi gnas paḥi mya ñan las ḥdas paḥo |

| **ye śes kyi khyad par gyis khyad par du ḥphags paḥi gsuñ** shes bya ba ni sgrib
pa dañ bral baḥi ye śes te | de yañ rnam par mi rtog paḥi ye śes rjes su [mi] mthun pa
paḥo | | sañs rgyas kyi ye śes ni sgrib pa thams cad kyi bag chags spañs pa ste | ḥdi
ni rnam par mi rtog paḥi ye śes dañ | ye śes kyi khyad par ro |

[序. 3] | **ji ltar brjod ce na** | ḥdi ltar bstan pa ḥdis | ñan thos kyi theg par gañ
dag ma bstan paḥi gnas bcu po dag theg pa chen po las [N. 3 a] bstan te | ḥdi lta
ste | (1) kun gshi rnam par śes pa ni śes byaḥi gnas su bstan to | (2) | ño bo ñid
gsum po gshan gyi dbañ dañ | kun brtags pa dañ | yoñs su grub pa dag ni śes
byaḥi mtshan ñid du bstan to | (3) | rnam par [D. 2 b] rig pa tsam ñid ni śes byaḥi
mtshan ñid la ḥjug par bstan to | (4) | pha rol tu phyin pa drug bo dag ni des
ḥjug paḥi rgyu dañ ḥbras bur bstan to | (5) | byañ chub sems dpaḥi sa bcu dag ni
deḥi rgyu dañ ḥbras bu sgom par rab tu dbye bar bstan to | (6) | byañ chub sems
dpaḥi sdom pa ni der lhag paḥi tshul khriṃs su bstan to | (7) | dpaḥi bar ḥgro ba

(1) P. N. sam, D. so.

(2) P. N. no, D. to.

(3) D. gyis, P. N. gyi.

(4) 長尾本 p. 154 注(1)参照。

(5) P. N. pa, D. ナシ。

(6) D. P. kyi, N. kyis.

(7) P. N. sa bcu, D. sa bcu po.

(8) P. N. sgom par, D. bsgom pa.

155 c

位六波羅蜜雖是世法、能引出世法。能生唯識道故、說是入三性因。菩薩已入地、出世清淨六波羅蜜、即是入三性果。

論曰。菩薩十地說、名入因果修差別相。

釋曰。出世十種菩薩地、是名入因果修差別。

論曰。菩薩所受持守護禁戒說、名下於修差別戒學相。首楞伽摩、虛空器等定說名心學相。無分別智說名慧學相。無住處涅槃說名學果寂滅相。三種佛身自性身、應身、化身、此三說名無分別智果相。

釋曰。於地中有三種修觀。說名三種依學。此學果即是滅、謂滅三障。無分別智名依學。此智若約聲聞無四倒分別、名無分別。若約菩薩無一切法分別、名無分別。二無分別異相、如。此三種佛身是無分別智果。若離自性身法身不成。譬如眼根。若離法身應身不成。譬如眼識離根不成。應知、此二由能依所依故得相應。若離應身已入大地菩薩無受用法樂。若無受用法樂。菩提資糧不具足。譬如見色。若離應身化身不成。若無化身諸菩薩在願樂位中。聲聞疲盡願樂、初發修行。皆不得成。是故決定應有三身。

論曰。如。此十種處、唯大乘中有、異於

別智說為增上慧體。無住涅槃說為彼果滅體。諸佛三身、自性身、共用身、化身、說為彼果智體。由此等十處故、與聲聞乘殊異。殊異者最上故。由世尊為菩薩說。是故言諸佛世尊為大乘故、有十種勝相勝語應知。

釋曰。云何顯發者、謂有何相貌故。六波羅蜜為入彼因果體者、謂唯識觀得入三性、即是清淨波羅蜜因。雖是世間能引出世間故。入地已去即是清淨、為出世果體故。菩薩十地為彼因果修差別體者、即是諸地中修三學。果者、即此三學果名。此果中滅是滅果體。謂滅煩惱障智障故。無分別智是增上慧學體者、謂聲聞無四倒分別故、名無分別。諸菩薩於一切法無分別、此是二無分別差別故。三種佛身為果智體者、彼三學果名。彼果即是智故、言彼果智。此體即是彼果智體。此中若離自性身即無法身。如眼。若離此則無報身。如眼識。此能依所依二法平等應知。若離報身、已入大地諸菩薩受用法不成。若無受用法、菩提資糧滿足亦不成。如見色、化身亦爾。若離此解行中諸菩薩。及諸聲聞龜淺解、初發修行亦不成。是故決定應有三身。故大乘與聲

上戒體。首楞伽摩、虛空藏等諸三摩地說名此中增上心體。無分別智說名此中增上慧體。無住涅槃說名彼果斷體。三種佛身、一自性身、二受用身、三變化身、說名彼果智體。由此所說十處顯於大乘與聲聞乘。又顯最勝世尊但為菩薩宣說。是故應知、但依大乘、諸佛世尊有十行相殊勝勝語。釋曰。云何能顯者、是問何緣義。六波羅蜜多說名彼入因果體者、謂由唯識性入三自性時、世間施等波羅蜜多名清淨因。由能引發出世間故。入地已去即彼施等波羅蜜多成。出世間一名清淨果。菩薩十地說名彼因果修差別體者、謂菩薩十地、是前所說波羅蜜多因果二位修差別性。無分別智說名此中增上慧體者、若諸聲聞離四顛倒分別名無分別、若諸菩薩離一切法分別名無分別。二無分別差別如是。無住涅槃說名彼果斷體者、謂三學果故名彼果。彼果即斷名彼果斷。此性名為彼果斷體。即是煩惱所知二障斷義。三種佛身說名彼果智體者、彼三學果故名彼果。彼果即智名彼果智。此性名為彼果智體。此中若無自性身應無法身。譬如眼根。若無法身應無受用身。譬如眼識。應知此中所依能依為同法喻。若無受用身已入大

中所依能依為同法喻。若無受用身已入大

dañ nam mkhaḥ mdsod la sogs paḥi tiñ ñe ḥdsin dag ni der lhag paḥi sems su
 bstan to | (8) | rnam par mi rtog paḥi ye śes ni lhag paḥi śes rab tu bstan to | (9)
 | mi gnas paḥi mya ñan las ḥdas pa ni deḥi ḥbras bu spañs par bstan [N. 3 b] to
 | (10) | sañs rgyas kyi sku gsum ste | ño bo ñid dañ | loñs spyod rdsogs pa dañ |
 bprul pa ni deḥi ḥbras bu ye śes su bstan to |

| ñan thos kyi theg pa las khyad par du byas pa gnas bcu po ḥdi dag gañ dag
 bcom ldan ḥdas kyis byañ chub sems dpaḥ [P. 3 a] rnams las brtsams nas | theg
 pa chen po las khyad par du ḥphags pa mchog ñid du bstan pa dag go |

| de bas na theg pa chen po las brtsams te | sañs rgyas bcom ldan ḥdas rnams
 kyi gsuñ khyad par rnam pa bcus khyad par du ḥphags par śes par byaḥo |

| ji ltar brjod ces bya ba ni rnam pa gañ gis shes bya baḥi tha tshig go | | pha rol
 tu phyin pa drug po dag ni de la ḥjug paḥi rgyu dañ ḥbras bur shes bya ba la rnam par
 śes pa tsam ñid kyis na ño bo ñid gsum gyi khyad par dag paḥi pha rol tu phyin pa ni
 rgyu ste | ḥjig rten dañ ḥjig rten las ḥdas pa ḥdren par byed paḥi phyir ro | | sar chud
 pa rnams kyi ni de dag ñid dag paḥo | | ḥjig rten las ḥdas par gyur pa ni ḥbras buḥo |

| byañ chub sems dpaḥi sa bcu dag ni deḥi rgyu dañ ḥbras bu sgom pa rab tu
 dbye ba shes bya ba la bslab pa gsum dañ | [deḥi ḥbras bu yod de | de la] deḥi ḥbras
 bu dañ | deḥi spañs pa ni deḥi ḥbras bu spañs paḥo | | deḥi ño bo ni deḥi ḥbras bu
 spañs pa ñid de | [ñon moñs pa dañ] śes byaḥi sgrib pa spañs pa [P. 146 a] shes bya baḥi
 don to |

| rnam par mi rtog paḥi ye śes ni lhag paḥi śes rab ces bya ba la | ñan thos kyi
 rnam par mi rtog pa ni phyin ci log bshis rnam par mi rtog paḥo | | byañ chub sems
 dpaḥi ni chos thams cad rnam par mi rtog pa ñid de | de dag ni rnam par mi rtog pa
 dag gi khyad par yin no |

| sañs rgyas kyi sku gsum ni deḥi ḥbras [N. 134 a] bu shes bya ba la | de rnams kyi
 ḥbras bu ni deḥi ḥbras bu ste | deḥi ḥbras bu dañ ye śes ni deḥi ḥbras bu ye śes so | |
 deḥi ño bo ni deḥi ḥbras bu ye śes ñid do | | de la ño bo ñid med na chos kyi sku
 [D. 125 a] ñid kyañ ma yin te | mig bshin no | | de med na loñs spyod rdsogs paḥi sku
 yañ ma yin te | mig gi rnam par śes bshin te | ḥdir rten dañ brten pa mtshuñs paḥi chos
 blta bar byaḥo | | loñs spyod rdsogs paḥi sku med par sa chen por shugs paḥi byañ

(1… …1) 長尾本 p. 156 注(3)の還梵参照。

(2) P. N. kyi, D. kyis.

(3) 長尾本 p. 158 注(4)により挿入。

(4) (1)同。

(5) P. N. ni, D. chos ni.

(6) D. P. N. yin no, 長尾本 p. 158 l. 9. ro.

(7) D. P. pa, N. ナシ。

小乘二故說第一。

釋曰。此十法は無上菩提因、次第相引乃至無上菩提。

論曰。佛世尊但爲三菩薩二說此十義。

釋曰。大乘但是佛說、小乘則共說。大乘但爲三菩薩一說不爲二乘一說。由三三義故勝三小乘。

論曰。故依三大乘一諸佛世尊有十勝相、所說無等一過三於餘教。

[序. 4] 156 a

復次云何此十勝相所說無等、能顯三大乘、是如來正說、遮三小乘決非三大乘。於三小乘中一未曾見三此十義、隨釋三一義、但見三大乘中一釋。復次此十義能引三出無上菩提、成就隨順不相違。

釋曰。此三義證三三義能引三無上菩提。以三無上菩提因故。成就者、若約三聖教及正理、簡擇思惟此十義成就、不可三破壞。譬如三已見三導師所說道相。隨順者、若人觀行在修位中、此十義隨順修觀而住。譬如三導師所說道隨順而住。不相違二者、於三三地中一無三障因。譬如三導師所說道中、無三劫盜、虎狼等障。復有三地地中生死涅槃二不相妨礙。是故十義能引三無上菩提。

論曰。爲三諸衆生得三一切智智。

聞乘一殊異者、聲聞乘中不說故。最上者、顯三示於大乘中一亦殊勝故。

[序. 4]

272 c

論曰。復次云何以三此十種如來勝相勝語、得三顯三大乘是佛語、亦得三遮三聲聞乘一異於大乘。由三此十處於三聲聞乘中一不見說故、唯於三大乘中一說故。引三生大菩提、此十處成就隨順不相違、得三一切智智二故。此中有三偈、

應知依相、入、因果、修差別、

三學果滅、智、上乘中殊勝。

此說餘處無 見此勝覺因

故大乘佛語 由說三十處勝。

釋曰。此義云何、能引三三菩提故、顯三示此義。此十處成就隨順不相違者、能引三生大菩提故。引三生大菩提者、爲因故。成就者、於三三學量中一思量觀察、如三導師顯三示道相二故。隨順者、於三勝得中一起三修行二時、隨三順相應

地三諸菩薩應三無受用法樂。若無三受三用法樂、菩提資糧應三不圓滿。譬如三見色。若無三化身三勝解行地諸菩薩衆、諸聲聞等劣勝解者、最初發趣皆不應三有。是故決定應三有三身一。顯三於大乘異三聲聞乘一者、聲聞乘中不說此故。又顯三最勝一者、顯三大乘中此亦最勝。

323 b

[序. 4]

論曰。復次云何由三此十相殊勝殊勝如來語一故、顯三於大乘眞是佛語、遮三聲聞乘是大乘性。由三此十處於三聲聞乘一曾不見說、唯大乘中處處見說。謂此十處是最能引三三菩提一性。是善成立隨順無違、爲三能證得一一切智智。此中二頌、

所知依及所知相 彼入、因果、彼修異、

三學彼果斷及智 最上乘攝是殊勝。

此說此餘見不見 由此最勝菩提因

故許三大乘眞佛語。 由說三十處三故殊勝。

釋曰。此復云何、謂復顯三此所說十處。是最能引三三菩提一性、是善成立、隨順無違。是最能引三三菩提一性者、是大菩提能引因義。是善成立者、謂由三正理等量一思擇如見三導師所說道相。言隨順一者、謂爲三證得一勤修行時、隨

chub sems dpaḥ rnam kyī chos kyī loṅs spyod mi ḥbyuñ ño | | de med par yañ tshogs⁽¹⁾
yoṅs su rdsogs pa mi ḥbyuñ ste | gzugs mi mthoñ ba bshin no | | sprul paḥi sku med
par yañ mos pas spyod paḥi byañ chub sems dpaḥ rnam dañ | ñon thos dman pa la
mos pa rnam kyī dañ rtsom pa ñid ñams par ḥgyur ba des na ñes par sku gsum du
ḥgyur ba yin no |

| **theg pa chen po ñan thos kyī theg pa las khyad par tu byas pa shes bya ba la** |
ñan thos kyī theg pa las ma bstan pa theg pa chen po las khyad par du ḥphags pa
mthog ñid du bstan pa dag go |

[序. 4] | **ji ltar na de bshin gśegs paḥi gsuñ khyad par rnam pa bcus khyad par**
du ḥphags pa ḥdis theg pa chen po saṅs rgyas kyī bkaḥ ñid du yoṅs su bstan
pa yin la | ñan thos kyī theg pa ni theg pa chen por mi chud par bkag pa yin
te | ḥdi ltar gnas bcu po ḥdi dag ñan thos kyī theg pa la ni bstan par mi snañ
la | theg pa chen po la ni snañ baḥi phyir ro she na | gnas bcu po ḥdi dag ni
byañ chub chen po kun tu sgrub par byed pa ste | thams cad mkhyen paḥi ye
śes ḥthob par śen tu ḥthad pa mthun pa ḥgal ba med paḥo | | ḥdir tshigs su
bcad pa |

a. | śes byaḥi gnas dañ mtshañ ñid der ḥjug dañ |

| de yi rgyu ḥbras de rab dbye ba dañ |

| bslab pa gsum dañ de ḥbras spaṅs pa dañ |

| ye śes theg pa mchog gyur khyad par ḥphags |

b. | bstan ḥdi ḥdi ltar gshan la ma mthoñ la | [[N. 4 a]

| ḥdi dag byañ chub mchog gi rgyur mthoñ bas |

| gnas bcu bstan pas khyad shugs [D. 3 a] gañ yin pa |

| theg pa shen po saṅs rgyas bkar ḥdod do |

| de dag kyañ gañ shig ce na⁽⁵⁾ | **gnas bcu po ḥdi dag ni byañ chub chen po kun tu**
sgrub par byed pa ste | thams cad mkhyed paḥi ye śes ḥthob par śin tu ḥthad pa
mthun pa [P. 146 b] ḥgal ba med paḥo shes bya ba la | **byañ chub chen po kun tu**
sgrub par byed pa ñid ni | byañ chub chen por sgrub par byed pa ñid de | rgyu shes
bya baḥi don to | | **śin tu ḥthad pa** shes bya ba ni rigs pa la sogs paḥi tshad mas brtags
nas ñe bar bstan paḥi lam gyi rgyu mtshan te | rgyu mtshan rnam pa bcu poho | |
mthun pa shes bya ba ni mñon par rtogs pa la rab tu sbyor ba na⁽⁷⁾ | rjes su mthun par

(1) P. N. paḥi sku med, D. ナシ。

(2) P. N. dañ rtsom pa, D. dañ baḥi tshol ba.

(3) P. N. la, D. na.

(4) D. bkar, P. N. dkar.

(5) P. N. gañ shig ce na, D. gañ she na.

(6) D. pa, P. N. ba.

(7) P. N. na, D. ni.

釋曰。由此十義具足三德。謂無等境、無等行、無等果。若人聞思修、此必得無上菩提。故、言爲諸衆生得一切智智。

論曰。而說偈言

應知依及相入、因果、修異、
三學及果滅智無上乘攝
十義餘虛無。見此菩提因
故大乘佛言 由說十義勝。

[序. 5]

十義次第章第二

論曰。云何十義如此次第說。菩薩初學、應先觀諸法如實因緣。由此觀之故、於十二緣生、應生聰慧。次後於緣生法、應了別其體相。由智能離增益損減二邊過失。如正修應通達所緣如實諸相。次後從諸障應解脫。次心、已通達應知實相、是先所行六波羅蜜、應更成就、令清淨

住。故。如導師所說、於中隨順而住。不相違者、於諸地中障礙事不有故。如所說道中、無有賊等障礙。謂生死涅槃不相障礙。故。

[序. 5]

十義次第章第二

論曰。復次此十處、何故作如此次第說。諸菩薩最初由於如是等諸法、因中得善巧。即於緣生中得善巧之故。彼等次於緣所生法中、得善知其相。善知離增益損減二邊過之故。菩薩於如是等相善相應已。次於彼善攝持相中應須通達、即於障礙中心得解脫之故。通達彼應知相

順住故。如隨導師所說正道隨順而住。言無違者、謂諸地中無障礙因。如下隨導師所說道中、無劫賊等所有障礙。或復生死涅槃二種互不相違。

[序. 5]

復有異門。是最能引大菩提之性者、謂此能引無戲論無分別智之故。是善成立者、謂與四理不相違之故。言隨順者、謂與三量不相違之故。言無違者、非先隨順後相違之故。如頌言。

初任持愛悲後隨順不善
非黑白我見有益亦有損

323 c

爲能證得一切智智者、謂於一切法中發心無上無間一切行相智之故。善成立等復有餘義。謂善成立、隨順、無違、展轉釋。云何善成立。謂能隨順故。云何能隨順、謂無違轉之故。

論曰。復次云何如是次第說此十處。謂諸菩薩於諸法因要善善已、方於緣起應得善巧。次後於緣所生諸法、應善知其相。善能遠離增益損減二邊過之故。次後如善修菩薩應正通達善所取相、令從諸障中心得解脫。次後通達所知相已、先修行位六波羅蜜多、由證得之故應更成滿。增上意樂得清淨之故。次後清淨意樂所攝六

gnas pa ste | ji ltar lam bstan pa rjes su [N. 134 b] mthun par gnas pa bshin no | | hgal
 ba med pa shes bya ba ni sa rnam la mi mthun paḥi gnod paḥi rgyu med pa ste | ji
 ltar bstan paḥi lam la chom rkun la sogs paḥi gnod pa med pa bshin te | ḥkhor ba dañ
 mya ñan las ḥdas pa dag mi hgal ba ñid do |

[序. 5] | ciḥi phyir gnas bcu po ḥdi dag gi go rim ḥdi ltar bstan ce na | (1) ḥdi
 ltar byañ chub sems dpaḥ⁽⁴⁾ thog ma ñid du re shig chos rnam kyī rgyu la mkhas
 pa la brten nas | rten ciñ ḥbrel par ḥbyuñ ba la mkhas par byaḥo | (2) | deḥi ḥog
 tu sgro ḥdogs pa dañ skur pa ḥdebs paḥi mtha ñes pa yoñs su spañ ba la mkhas
 pa ñe bar bzuñ ste | rten ciñ ḥbrel par ḥbyuñ baḥi chos de dag gi⁽⁶⁾ mtshan ñid la
 mkhas par byaḥo | (3) | de ltar rab tu sbyor baḥi byañ chub sems dpas⁽⁷⁾ mtshan
 ñid śin tu bzuñ ba de rtogs par bya ste | des sgrib pa rnam las sems rnam par
 grol bar ḥgyur ro | (4) | deḥi ḥog tu śes byaḥi mtshan ñid rtogs nas [P. 3 b] lhag
 paḥi bsam pa rnam par dag pa la brten te | sñon sbyor ba can gyi pha rol tu
 phyin pa drug po dag rtogs par bsgrub par byaḥo | (5) | deḥi ḥog tu lhag paḥi
 bsam pa rnam par dag pas yoñs su gzuñ baḥi pha rol tu phyin pa drug po de
 dag sa bcu dag tu rab tu phye ste | bskal pa grañs med pa gsum du bsgos par
 byaḥo | (6-8) | deḥi ḥog tu byañ chub sems dpaḥi bslab pa gsum po dag yoñs
 su rdsogs par byaḥo | (9-10) | yoñs su rdsogs nas deḥi ḥbras bu mya ñan las ḥdas
 pa dañ | bla na med pa [N. 4 b] yañ dag par rdsogs paḥi byañ chub mñon par rdsogs
 par ḥtshañ rgya bar bya ste | gnas bcu po de dag gi go rim ni de ltar bstan
 to |

(1) 長尾本 p. 166 では玄奘訳に依って、この文章の後に〔序. 5〕の後半の注釈を移動している。

(2) P. N. rim, D. rims.

(3) P. N. ce na, D. she na.

(4) P. N. dpaḥ, D. dpas.

(5) D. pa ne bar bzuñ ste, P. N. par bya baḥi phyir.

(6) D. gi, P. N. la.

(7) D. rtogs nas, P. N. rtog pas.

(8) P. N. rim, D. rims.

156 b

無復退失。由依_レ意內清淨_レ故。次內清淨所攝諸波羅蜜、依_レ十地差別、應_レ修_レ隨_レ一三阿僧祇劫。次菩薩三學應_レ令_レ圓滿。圓滿已。是學果涅槃及無上菩提、次後應_レ得_レ修_レ。十義次第如_レ此。

此次第說中一切大乘皆得_レ圓滿。

釋曰。此十義境界有_レ次第、正行有_レ次第、果有_レ次第、由觀_レ此次第故、立_レ十義次第。復次、若人已了_レ別諸法因、於_レ十二緣生、則得_レ聰慧。何以故。由_レ果從_レ因生、不_レ從_レ自在天等不平等因_レ生、亦不_レ無因生。是故立_レ因果二智。次是法從_レ因生、菩薩應_レ識_レ其相。何者為_レ相。分別性實無_レ有_レ體、執言_レ是有、名為_レ增益。實有_レ真實性、執言_レ是無、名為_レ損減。增_レ無損_レ有是名_レ二邊。聰慧能離_レ此二邊。次所執唯有_レ識、由_レ此智_レ故是相應可_レ通達。由_レ此通達無_レ復障礙。次隨順入_レ唯識。世間六波羅蜜依_レ俗諦、得_レ依_レ真諦_レ清淨意所攝、出世六波羅蜜亦應_レ學。次於_レ十地中_レ隨_レ差別應_レ修_レ習各三阿僧祇劫。不_レ同聲聞修得_レ。何以故。聲聞於_レ三生中、下_レ對治種。成熟對治道。對治道成熟故、於_レ第三生中_レ解_レ脫三界得_レ阿羅漢果。次此差別修中、戒等三學應_レ令_レ圓滿。次三學果涅槃煩惱障智障等滅、無上菩

已、昔加行中六波羅蜜之勝、得_レ應_レ須_レ成就。依_レ內心清淨_レ故。此內心清淨所攝、六波羅蜜於_レ十地中、應_レ須_レ三阿僧祇劫、分令_レ淨故。次菩薩三學應_レ須_レ圓滿。既圓滿已彼果涅槃及阿耨多羅三藐三菩提應_レ須_レ正覺_レ故。十處作_レ如是次第說。

於_レ此說中。一切大乘皆得_レ究竟。

釋曰。何故作_レ如此次第說者、謂始從_レ諸菩薩、由_レ於如是等諸法因中、乃至彼果涅槃正覺阿耨多羅三藐三菩提等。此說由_レ知_レ諸法因故、得_レ於緣生善巧。由_レ有_レ因因果生。非_レ自在天等、是故得_レ因果二智。次於_レ因所生法應_レ知_レ其相。其相云何。分別性無、執以為_レ有、名為_レ增益。增_レ益於無即是損_レ減實有成就性_レ離_レ此二邊過失、故名_レ善巧。次於_レ所取應_レ以_レ唯識觀_レ知_レ其相、由_レ此觀_レ故得_レ無障礙。次於_レ隨順入_レ唯識、世間六波羅蜜、依_レ世俗得_レ已第一義_レ者應_レ須_レ得。謂應_レ修_レ淨心_レ所攝波羅蜜。次於_レ十地中、經_レ三阿僧祇劫、分應_レ修。非_レ如_レ聲聞_レ勝_レ得於_レ三生中_レ起_レ對治_レ便得_レ解脫。次即於_レ彼修中、戒等三學應_レ令_レ圓滿。次學果涅槃煩惱障滅、阿耨多羅三藐三菩提三身應_レ得。若大乘次第應_レ知_レ齊_レ此。何以故、若欲_レ

273 a

波羅蜜多、於_レ十地中_レ分分差別、應_レ勤修習。謂要經_レ三無數大劫。次後於_レ三菩薩所學_レ應_レ令_レ圓滿。既圓滿已、彼果涅槃及與_レ無上正等菩提、應_レ現等證。故說_レ十處_レ如是次第。

釋曰。云何如是次第說者問謂諸菩薩於_レ諸法

因_レ要先善已廣說、乃至彼果涅槃及與_レ無上正等菩提_レ應_レ現等證_レ故者答。要_レ先了_レ知_レ諸法因已、後於_レ緣起_レ方得_レ善巧。必有_レ因因果得_レ生起。非_レ自在等、由_レ此能得_レ因果兩智。次後於_レ因所生諸法_レ應_レ了_レ其相。何等為_レ相。謂實無_レ有_レ通計所執、定執為_レ有名為_レ增益、增_レ益無_レ故、損_レ減實有圓成實性、遠_レ離如_レ是一邊過失_レ故名_レ善巧。次於_レ如_レ是所取諸相、由_レ唯識性_レ應_レ正通達得_レ無障礙。次於_レ隨順入_レ唯識性、世俗所_レ證世間六種波羅蜜多、由_レ勝義_レ故應_レ更證得。是應_レ修作_レ清淨增上意樂攝義。次於_レ十地_レ分分差別、應_レ勤修習。謂要_レ經_レ三無數大劫。非_レ如_レ聲聞_レ極疾三生動修對治、便證_レ解脫。次後即於_レ如是修中_レ增上戒等菩薩三學應_レ令_レ圓滿。最後於_レ彼學果涅槃、煩惱永斷及與_レ無上正等菩提、三種佛身應_レ現等證。故說_レ十處_レ如是次第。論曰。又此說中、一切大乘皆得_レ究竟。

324 a

| **bstan pa ḥdir ni theg pa chen po thams cad yoñs su rdsogs pa yin no** |
 | **ciḥi phyir go rim ḥdi ltar ce na** |⁽¹⁾ gañ gi phyir byañ chub sems dpas re shig dañ
 po ñid du chos shes bya ba nas brtsams nas | **ḥbras bu mya ñan las ḥdas pa dañ** | **bla**
na med pa yañ dag par rdsogs paḥi byañ chub mñon par rdsogs par byañ chub paḥi
 bar du ḥdi las bstan te | ḥdi ltar rgyuḥi chos rnamś śes nas | rten ciñ ḥbrel par ḥbyuñ
 ba la mkhas par ḥgyur te | gañ gi [D. 125 b] rgyu las ḥbras bu ḥbyuñ gi | dbañ phyug la
 sogs pa las ni ma yin pas des na rgyu dañ ḥbras bu gñis ka yañ śes par ḥgyur ro |
 | de nas ni⁽⁴⁾ gañ rgyu ñid las byuñ baḥi chos rnamś kyi mtshan ñid śes par bya ste |
 mtshan ñid kyañ gañ she na | yod pa ma yin paḥi kun tu brtags pa la yod par mñon
 par shen ciñ sgro btags pa ste | yod pa ma yin pa la sgro btags pas na yod paḥi yoñs
 su grub pa la skur pa btab par ḥgyur bas mthaḥ de dag gñi gaḥi skyon spañs pa ni
 mkhas pa [P. 147 a] yin no |
 | de nas ni ḥdi ltar rnam par śes pa tsam ñid kyi mthan ñid du bzuñ shiñ rtogs par
 bya ste | des ni sgrib pa med par ḥgyur ro |
 | de nas rnam par śes pa tsam ñid la ḥjug pa na rjes su mthun paḥi pha rol tu phyin
 pa drug po ḥjig rten pa kun rdsob tu rtogs pa dañ | don dam pa dag rtogs par bya ste
 | yoñs su dag paḥi bsam pas gzuñ bar byaḥo shes bya baḥi don to |
 | de nas ni sa bcu po rnamś kyi khyad par gyis bskal pa grañś med pa gsum du goms
 par bya ste | ñan thos kyi rtogs pa ltar ni ma yin te | de dag gi ni skye ba gsum gyi
 gñen [N. 135 a] pos thar par ḥgyur ro |
 | de nas de dag ñid la bsgoms pas lhag paḥi⁽⁷⁾ tshul khriś la sogs paḥi bslab pa gsum
 yoñs su rdsogs par byaḥo |
 | de nas bslab paḥi ḥbras bu mya ñan las ḥdas pa ñon moñś pa dañ | śes byaḥi sgrib
 pa spañś pa bla na med pa yañ dag par rdsogs paḥi byañ chub sku gsum rdsogs par
 byañ chub pa shes bya ba ni go rim ste | ḥdi dag ñid ni theg pa chen poḥo |
 | des na ḥdi ltar rten ciñ ḥbrel par ḥbyuñ ba brjod par bya ba de yañ kun gshi rnam

(1) P. N. rim, D. rims.

(2) P. N. ce na, D. she na.

(3) D. śes nas, P. śe na, N. she na.

(4) P. N. de nas, D. des na.

(5) P. N. ḥjug, D. ḥdug.

(6) P. N. dag gi, D. dag.

(7) P. N. lhag, D. bslab.

(8) P. N. bslab, D. lhag.

[1. 1]

提及三身此等應覺故、說如此次第一。若立大乘不出此法。何以故、若欲釋緣生義、即入阿黎耶識中。若欲釋法相、即入三性攝。若欲釋得即入唯識中。若欲釋因果、即入唯識觀處。若欲釋地、即入因果處。若欲釋三學、即入三地處。若欲釋滅、即入三學處。若欲釋無上菩提及三身、即入無住處涅槃攝。若說佛體及因果、其數如此。故說次第。

156 c

復有別釋。此十義能引無上菩提、生無虛無分別智、故名成就、與四道理及三量不相違。故名隨順、非先隨順後相違。如偈言。能持愛及悲、隨順於善故。非黑白我見、有益亦有損、故名不相違。能生一切智智者、於一切法無間如理如量智生故。復有別解、以後釋前。

衆名章第三

論曰。此初說應知依止、立名阿黎耶識。世尊於何處說此識、及說此識名阿黎耶。如佛世尊阿毘達磨略本偈中說。此界無始時 一切法依止 若有諸道有 及有得涅槃。釋曰。今欲引阿含證阿黎耶識體及名。阿含謂大乘阿毘達磨、此中佛世尊說偈。此即

[1. 1]

緣生、即入阿梨耶識中。若說相即入三性中。若說勝得即是唯識。若說波羅蜜、即入諸波羅蜜中。若說地即入地中。若說學即入學處。若說滅及智、即攝在無住處涅槃及三身。佛語如此。故作如是次第說。復有別義引生大菩提等者、謂能生無戲論無分別智、故、成就者、相應故。隨順者、不違三量、故。不相違者、非先隨順後相違。故。如偈說。

攝持求及悲、亦隨順諸善

非黑白我見、有益亦有損

得一切智智者、謂於一切法中、無間一切種智生故。此成就等復有別義。成就隨順不相違等、前句為本、後句為釋。云何成就、謂隨順故。云何隨順。謂不相違、故、如是展轉。

衆名章第三

273 b

論曰。於中即此最初、應知依止、說名阿梨耶識。世尊於何處說此阿梨耶識、名阿梨耶識。世尊於阿毘達磨經偈中說。此界無始時 諸法共依止 由此有諸趣 及涅槃勝得。釋曰。世尊於阿毘達磨阿含中說阿梨耶識、名阿梨耶識者、即是此論初所說阿毘達磨修

[1. 1]

釋曰。一切大乘齊此究竟。何以故、若欲說緣起、即入阿賴耶識攝。若欲說諸相、即入三自性攝。若欲說證得、即入唯識性攝。若欲說波羅蜜多、即入波羅蜜多攝。若欲說諸地、即入諸地攝。若欲說諸學、即入諸學攝。若欲說斷及智、即入無住涅槃及三種佛身攝。齊是名為一切佛語。是故但說如此次第。

攝大乘論釋所知依分第二之一

論曰。此中、最初且、說所知依即阿賴耶識。世尊何處說阿賴耶識、名阿賴耶識。謂薄伽梵於阿毘達磨大乘經伽他中說。無始時來界 一切法等依 由此有諸趣 及涅槃證得。釋曰。此中能證阿賴耶識其體定是阿賴耶識。阿笈摩者、謂薄伽梵、即初所說阿毘達磨大

par śes paḥi nañ du ḥdus so | | deḥi mtshan ñid ni deḥi ño bo ñid gsum mo | | des na
rtogs pa ni rnam par śes pa tsam ñid do | | de las ni pha rol tu phyin paḥo | | pha rol
tu phyin pa las ni sa dag go | | sa dag [las]⁽¹⁾ ni bslab paḥo | | bslab pa las ni spañs pa
dañ ye śes te | mi gñas paḥi mya ñan las ḥdas pa ni sku gsum gyis bsdus paḥo | | de
dag ñid ni sañs rgyas shes bya ste | de bas na go rim ni ḥdi ltar bstan to |

^{(6..} rnam grañs gshan yañ byañ **chub chen po** [P. 147 b] **kun tu sgrub par byed pa** shes
bya ba ni spros pa med pa rnam par mi rtog paḥi ye śes kun tu [D. 126 a] ḥdren paḥo
| | ^{(7..} **śin tu ḥthad pa** ni rigs paḥi tshad ma gsum dañ mi ḥgal baḥo | | **mthun pa** shes
bya ba ni sñar rjes su mthun par gyur la | phyis ḥgal ba ma yin te | ji skad du |
| dge la rjes su chags pa dañ | | gnod la phan pa lyed pa la |
| dkar nag ño bor mi blta baḥi | | dañ paḥi rtsa ba sñin rje ḥdod |
| ces ḥbyub bas so |

| **thams cad mkhyen paḥi ye śes ḥthob par** shes bya ba ni chos thams cad rgyun mi
ḥchad par rnam pa thams cad kyis mkhyen pa ḥbyuñ ba ñid do |

| śin tu ḥthad pa la sogs pa dag gi don gshan yañ śin tu ḥthad pa mthun pa ḥgal ba
med pa shes bya ba ni bstan pa dañ bśad [N. 135 b] pa ñid de | ji ltar she na śin tu
ḥthad pa ni mthun pa ḥgal ba med par gñas pas so |

[śes byaḥi gñas]

[1. 1] | de la re shig thog ma kho nar kun gshi rnam par śes pa ni śes byaḥi
gñas so shes brjod pa bcom ldan ḥdas kyis kun gshi rnam par śes pa shes bstan
pas | kun gshi rnam par śes pa gañ du bstan ce na | bcom ldan ḥdas kyis chos
mñon paḥi mdo las tshigs su bcad de |
| ⁽¹⁴⁾ **thog ma med paḥi dus kyī dbyiñs** |
| **chos rnams kun gyi gñas yin te** |
| **de yod pas na ḥgro kun dañ** |
| **mya ñan ḥdas paḥañ thob par ḥgur** |

(1) 長尾本 p. 174 l. 8 による。(2) D. P. N. ni, 長尾本は漢訳によって dañ と改めている。

(3) D. gyis, P. N. gyi. (4) 長尾本 p. 174 注(2)には、陳訳に依って、sañs rgyas [kyi bkaḥ nid] としている。(5) P. N. rim, D. rims.

(6... 6) 玄奘訳世親釈では〔序・4〕の後半に挿入されている。しかし、真諦訳・笈多訳はチベットと一致する。

(7... 7) 長尾本 p. 166 注(7)には、この部分を次のように改めて理解すべきとしている。śin tu ḥthad pa ni rigs [-paḥo | | mthun pa ni] tsad ma gsum dañ mi ḥgal baḥo | | [ḥgal ba med pa] ni sñar rjes su...

(8) P. N. te, D. pa ste. (9) P. N. blta, D. Ita. (10) P. N. ḥbyub, D. bya.

(11) P. N. paḥi, D. pas. (12) P. N. gshan, D. bshin. (13) P. N. ce na, D. she.

(14) この頌は『唯識三十頌安慧釈』に次のようにある。

anādikāliko dhātuḥ sarvadharmasamāśrayaḥ |

tasmin satiḥ sarvā nirvāṇadhigamo' pi vā | | (Triṃśikā, p. 37)

(15) P. N. thob, D. ḥthob.

此阿黎耶識界。以解爲性。此界有五義。一體類義。一切衆生不出此體類。由此體類衆生不異。二因義。一切聖人法四念處等緣此界一生故。三生義。一切聖人所得法身、由信樂此界法門一故得成就。四真實義。在二世間不破、出世間亦不盡。五藏義。若應此法、自性善故成內、若外此法、雖復相應、則成艱故。約此界、佛世尊說、比丘、衆生初際不可了達。無明爲蓋、貪愛所縛、或流或接、有時泥黎耶、有時畜生、有時鬼道、有時阿修羅道、有時人道、有時天道。比丘、汝等如此長時受苦、增益貪愛恒受血滴。

157 a
由此證一故、知無始時。如經言、世尊此識界是依、是持、是處、恒相應及不相離、不捨智、無爲恒伽沙等數諸佛功德。世尊、非相應、相離捨智有爲諸法、是依、是持、是處故、言一切法依止。如經言、世尊、若如來藏有由不了故、可言生死是有故、言若有諸道有。如經言、世尊若如來藏非有、於苦無厭惡、於涅槃無欲樂願一故、言及有得涅槃。

復次、此界無始時者、即是顯因。若不立因可言有始。一切法依止者、由此識爲一切法因一故、說一切法依止。若有諸道有、

多羅。此中、界者是因義。諸法共依止者、由是因故一切法同共依止、謂依止此以爲因體。有此一切法依止一故、諸趣果報由此得生。於無量生中有力、於善說惡說法中一能解其義。

若復越次得於勝得。又爲煩惱依止體。由此得有極重煩惱及牢固煩惱。此等四種果報中、勝者身有堪能。翻此者無堪能。應知一切者於生死中隨何趣。非唯諸趣亦有涅槃勝得。以有煩惱即有涅槃故、此阿含顯應知依止是阿梨耶識。彼阿含復說。

324 b

乘經中說如是頌。界者謂因、是一切法等所依止。現見世間於金鑽等說界名故、由此是因一故、一切法等所依止。因體即是所依止義。由此有者由一切法等所依一有。諸趣者於生死中所有諸趣。

趣者謂異熟果。由此果一故、或是頑愚瘖瘡種類、或有勢力一能了善說惡說法義、或能證得上勝證得、又爲煩惱所依止一性。由此故有猛利煩惱、長時煩惱。如是四種異熟差別所依止一故、無有堪能。應知、翻此名有堪能。

非唯諸趣由此而有、亦由此故證得涅槃、要由有雜染一得涅槃一故。

| de la kun gshi rnam par ⁽¹⁾śes pa ni kun gshi rnam par śes pa ñid kyi luñ ni bcom
ldan ḥdas kyis chos mñon pa de ñid las dañ por bstan pa **thog ma med pañi dus kyi**
dbyiñs shes bya bañi tshigs su bcad pa gsuñs te | **dbyiñs** shes bya ba ni rgyuḥo | | chos
rnams kun gyi gnas yin te | shes bya ba ni gañ rgyu yin pa des na chos thams cad
kyi gnas yin no shes bya bañi don to | | **de yod pas** de shos rnams kun gyi gnas yod
na **ḥgro** kun te | gañ su ḥkhor ba na yod pañi ḥgro baḥo |

| ḥgro ba ḥbaḥ shig ma yin gyi mya ñan las ḥdas pañañ ste | de yod pas na kun nas
ñon moñs pa dañ mya ñan las ḥdas pa ñid kyañ ño |

(1) P.N. de la kun gshi rnam par śes pa ni, D. de la.

及有得_レ涅槃_二者、此一切法依止、若有是道則有、果報亦有。由_二此果報_一衆生受_レ生、易_レ可_レ解_レ邪正兩說分別有_レ異。後復、能得_二上品正行_一應得_二勝德_一。由_二煩惱依止_一故生_二極重煩惱、及常起煩惱_一。是果報等四種差別名_二依止勝_一。能翻_二此四種_一名_二依止下劣_一。生死中不_二但道等非有_一、涅槃義亦非_レ有。何以故、若有_二煩惱_一則有_二解脫_一。應知依止中復有_二阿含、能證_二阿黎耶識_一。

[1. 2]

論曰。阿毘達磨中、復說_レ偈言、
諸法依_レ藏住 一切種子識
故名_二阿黎耶_一。我爲_二勝人_一說

釋曰。諸法依_レ藏住者、第二句釋_二第一句_一。謂_二一切種子識_一。由_二煩惱業_一故變、阿黎耶識相續前果報後成_レ因。故名_二阿黎耶_一者、顯_レ義證_レ名以名_二目識_一。我爲_二勝人_一說者、勝人謂_二諸菩薩、是菩薩境界依止、及能障_二菩薩道_一故、爲_二菩薩_一說。

[1. 3]

論曰。此阿含兩偈證_二識體及名_一。云何佛說_二此識_一名_二阿黎耶_一。

釋曰。此語欲_レ顯_二立名之因_一。
論曰。一切有生不淨品法、於_レ中隱藏爲_レ果故。

釋曰。一切謂三世。三世中、取_二正生能生不

[1. 2]

論曰。即彼經復說_レ偈、
諸法所_レ依住 一切種子識
故名_二梨耶識_一。我爲_二勝人_一說

釋曰。此偈第二句釋_二第一句_一。勝人者謂諸菩薩故。

[1. 3]

論曰。有_二此等阿含_一爲_レ證。然此識何因緣故、說名_二阿梨耶_一。一切有生染法依住爲_レ果、此識亦依_レ彼法爲_レ因故、名_二阿梨耶識_一。又衆生依住以爲_二自我_一故、名_二阿梨耶識_一。

釋曰。此識名_二阿梨耶_一者、謂諸法依住故。依住者、共轉故。有生者、謂有生起_レ類、皆名_二

[1. 2]

論曰。即於_二此中_一復說_レ頌言、
由_レ攝_二藏諸法_一 一切種子識
故名_二阿賴耶_一。勝者我開示

釋曰。已引_二阿笈摩_一證_二阿賴耶識是所知依體_一、復引_二阿笈摩_一證_二阿賴耶識名_二阿賴耶識_一。於_二此頌中_一由_二第二句_一釋_二第一句_一。勝者即是諸菩薩衆。

[1. 3]

論曰。如是且引_二阿笈摩證_一。復何緣故、此識說名_二阿賴耶識_一。一切有生雜染品法、於_レ此攝藏爲_二果性_一故、又即此識於_レ彼攝藏爲_二因性_一故、是_レ〔故〕說名_二阿賴耶識_一。或諸有情攝_二藏此識_一爲_二自我_一故、是故說名_二阿賴耶識_一。

[1. 2] **yañ de ñid las**

| **chos kun sa bon thams cad pañi** |

| **rnam par śes pa kun gshi ste** |

| **de bas** [D. 3 b] **kun gshi rnam śes te** |

| **dam pa dag la ñas bśad do** |

shes gsuñs te | ḥdi ni re shig luñ ño |

| de ni śes byañi gnas kun gshi rnam par śes pa ñid kyi luñ ño | | luñ gshan yañ |
chos rnams kun gyi gnas yin⁽¹⁾ te | rnam śes sa bon thams cad pa | | shes bya ba la |
rkañ pa dañ po ni [P. 148 a] rkañ pa gñis pas bśad do | | **dam pa dag la** shes bya ba
ni byañ chub sems dpañi ñes pañi ñes pañi tshig yin gyi | kun gshi rnam par śes pa⁽²⁾
ni ma yin no |

[1. 3] | **ciñi phyir de kun gshi rnam par śes pa shes bya she na** | **skye ba can**
kun nas ñon moñs pañi chos thams cad ḥbras buñi dños por der sbyor bañam |
de yañ rgyuñi dños por de dag tu sbyor bañi phyir kun gshi rnam par śes paño |
| **yañ na sems can dag deñi bdag ñid du sbyor bas kun gshi rnam par śes paño** |

(1) D. N. yin, P. ナン。

(2) D. pa, P. N. pañi.

(3) P. N. por, D. po.

157 b

淨品法。謂翻三種淨品名不淨品。

論曰。此識於諸法中隱藏為因故。

釋曰。諸法謂阿黎耶識果。即不淨品等。阿黎耶識藏住此果中為因。

論曰。復次。諸衆生藏此識中。由取我相一故。是故名阿黎耶識。

釋曰。藏者以執義。約阿陀那識及意識。說衆生名。何以故。一切衆生無我執。我執若起。緣何境。緣本識起。微細一類相續不斷故。

[1. 4]

論曰。〔此識亦名阿陀那識。〕阿含云如解節經所說偈。

執持識深細〔諸〕種子恒流

於凡我不說 彼勿執為我

釋曰。前引阿毘達磨偈為證。此中。更引經偈為證。阿毘達磨以理為勝。經以教為勝。教必有理。理必順教。此二名證。若離此二證。立義不成。

此證從解節經一出。佛告廣慧菩薩。廣慧。於六道生死。是諸衆生隨在衆生聚。或受卵生胎生濕生化生。此中得身及成就。初受生時。一切種識先熟合大長圓。依二種取。謂有依色根。及相名。分別言說習氣。若有色界中有二種取。若無色界無二種取。

有生一故。染法者。謂異於淨法一故。衆生依住為自我一者執取故。

[1. 4]

157 c

論曰。此阿梨耶識復說名阿陀那識。於中

有阿含。如世尊解節經中說。

阿陀那識甚深細 一切種子轉如流

嬰兒凡夫我不說 不令分別謂為我

釋曰。復於解節。阿含中。佛告廣慧。六趣生死中。彼彼衆生中。隨彼彼衆生類。若卵生若胎生若濕生若化生中。自身轉生。於生時。彼時一切種子心。最初成熟。便得和合。龜大增長圓滿。有二種取。所謂有依色根取故。相名。分別世俗。戲論等熏習取故。

於三界中有二種取。無色界中無二種取。廣慧。此識或說名阿陀那。於身普遍持故。或說名阿梨耶。於身隱藏普遍同衰利安否故。或說名心。以積聚增長色聲香味觸法故。

[1. 4]

論曰。復次此識。亦名阿陀那識。此中阿

笈摩者如解深密經說。

阿陀那識甚深細 一切種子如瀑流

我於凡愚不開演 恐彼分別執為我

釋曰。復引解深密經。即此阿笈摩中。佛告廣慧菩薩摩訶薩。曰。廣慧當知。於六趣生死。彼彼有情墮彼彼有情衆中。或在卵生。或在胎生。或在濕生。或在化生。身分生起。或在胎生。或在濕生。或在化生。身分生起。於中。最初一切種子心識成熟。展轉和合增長廣大。依二執受。一者有色諸根及所依執受。二者相名。分別言說。戲論習氣執受。有色界中具二執受。無色界中不具二種。

廣慧。此識亦名阿陀那識。何以故。由此識於身隨逐執持。故。亦名阿賴耶識。何以故。

| **der sbyor ba** she bya ba ni gnas paḥo | | **skye ba can** shes bya ba ni gañ dag la
 skye ba yod pa de dag la skye ba can shes byas nas so | | **kun nas ñon moñs paḥi chos**
 shes bya ba ni rnam par byañ ba las bzlog paḥi don to | | sems can dag skyes paḥi⁽¹⁾
 deḥi bdag ñid du sbyor bas shes bya ba ni ḥdsin par byed ces bya baḥi don to |

[1. 4] | **de ni len paḥi rnam par śes pa shes kyañ bya ste** | **ḥdi la luñ ni**
dgoñs pa ñes par ḥgrel paḥi mdo las |

| ⁽²⁾ **len paḥi rnam par śes** [P. 4 a] **pa zab ciñ phra** |

| **sa bon thams cad chu bo bshin du ḥbab** |⁽³⁾

| **bdag tu rtog par gyur na mi ruñ shes** |

| **ḥdi ni byis pa rnams la ñas ma bstan** |

| ⁽⁴⁾ **ces ji skad gsuñs pa lta buḥo** |

| yañ ḥdiḥi luñ ni dgoñs pa ñes par ḥgrel pa de las blo gros yañs pa ḥgro ba drug
 gi ḥkhor ba ḥdi na sems can gañ dañ gañ dag [D. 126 b] sems can gyi ris gañ dañ gañ
 du yañ sgoñ⁽⁵⁾ las skyes paḥi skye gnas sam | yañ na mñal las skye baḥam | yañ na dgod
 gśer las skye baḥam | yañ na rdsus te skye baḥi skye gnas su [N. 136 a] lus mñon par
 ḥgrub ciñ ḥbyuñ bar ḥgyur ba deḥi⁽⁶⁾ dañ bor ḥdi ltar len pa rnam pa gñis so | | rten⁽⁷⁾
 pa dan bcas paḥi dbañ po gzugs dañ | len pa dañ | mtshan ma dañ | miñ dañ | rnam⁽⁸⁾
 par rtog pa la tha sñad ḥdogs paḥi spros paḥi bag chags len pa la brten nas sa bon
 thams cad paḥi sems rnam par smin ciñ ḥjug la rgyas śiñ ḥphel ba dañ yañs par ḥgyur
 ro | | le la gzugs cas gyi khams na ni len pa gñig yod la | gzugs can ma yin paḥi khams
 na ni len pa gñis su med do |

| blo gros yañs pa rnas par śes pa de ni len paḥi rnam par śes pa shes kyañ bya
 ste | ḥdi ltar des lus ḥdi gzuñ shin blañs paḥi phyir ro | | kun gshi rnam par śes pa
 shes kyañ bya ste | ḥdi ltar de lus ḥdi la grub pa dañ | bde ba gcig paḥi don gyis kun
 tu sbyor ba dañ | rab tu sbyor bar byed paḥi phyir ro | | sems shes kyañ bya ste | ḥdi
 ltar de ni [P. 148 b] gzugs dañ | sgra dañ | dri dañ | ro dañ | reg bya dañ | chos rnas
 kyis kun tu bsags pa dañ | ñe bar bsags pa yin paḥi phyir ro |

(1) D. skyes paḥi, P. N. ナシ。

(2) この頌は『唯識三十頌安慧釈』に次のようにある。

ādānavijñāna gabhiraśūksmo ogho yathā vartati sarvabījo |

bālāna eṣo mayi [na] prakāśito mā haiva ātmā parikalpayeyuḥ | | (triṃśikā, p. 34)

(3) P. N. chu bo bshin de ḥbab, D. chu boḥi rgyun bshin ḥbab.

(4) P. N. ces, D. shes.

(5) D. las. P. N. nas.

(6) D. deḥi, P. N. der.

(7) D. so, P. N. po.

(8) D. pa, P. N. ナシ。

廣慧、此識或說名阿陀那。何以故、由_二此本識能執持身_一故。或說名阿黎耶識。何以故、此本識於_レ身常藏隱、同_二成壞_一故。或說名質多。何以故、此識色聲香味觸等諸塵所_二生長_一故。

廣慧、依_レ緣_二此本識_一、是識聚得_レ生。謂眼識乃至意識。依_二有識眼根_一緣_二外色塵_一、眼識得_レ生。與_二眼識_一、同一時共_レ境、有_二分別意識起_一。若一眼識生、是時、一分別意識生、與_二眼識_一共_レ境。此眼識若共_二二識_一或三四五共_レ起、是時一有_二分別意識_一、與_二五識_一共_レ緣_レ境生。

如_二大水流_一。若有_二一能起_レ浪因_一至則一浪起、若_二若多能起_レ浪因_一至、則多浪起、是水常流不_レ廢不_レ斷。復次、於_レ清淨圓鏡面中、若有_二一能起_レ影因_一至則一影起、若_二若多能起_レ影因_一至、則多影起、是圓鏡面不_レ轉、成_レ影亦無_二損減_一。

此本識猶如_二水流及鏡面_一、依_二此本識_一、若有_二一能起_レ眼識_一緣_二至_一、則一眼識起、乃至若有_二五能起_レ識因_一至、則五識起。

廣慧、如_レ此菩薩依法如智_一有_二聰慧_一。能通_二達意心識秘密義_一。諸佛如來如量、由_二如_レ此義_一、不_レ記_レ說諸菩薩能通_二達意心識秘密義_一。廣慧、諸菩薩由_二如實不_レ見_二本識及阿陀那識_一、

廣慧、依_二阿陀那識_一為_二住處_一轉_二生六識身_一。所謂眼識耳識鼻識舌識身識意識。於_レ中有_レ識、眼根及色為_レ緣_二生_一眼識、即彼眼識共行、同時共_二境界_一。有_二分別意識_一生。

若一眼識生、隨_二一有_二分別意識_一、與_二眼識_一共_レ行、同時共_二境界_一生隨_二二時_一。一時若_二若三若四若五識身轉生_一、即彼一時。一時一分別意識與_二五識身_一共_レ行、同時共_二境界_一生。

如_二大川流_一。若有_二一浪緣_一至、則一浪生。若_二若多起_レ浪緣_一至、則多浪生。彼川自流無_レ斷無_レ盡。復次如_二淨鏡面_一。若有_二一一起_レ像緣_一至、則一像生。若_二若多起_レ像緣_一至、則多像生。然此鏡面不_レ轉成_レ像、亦無_二損減_一。

應_レ知_レ如_レ是如是阿陀那識。猶如_二大川_一。依_レ此而住、若有_二隨一起_レ眼識_一緣_二至_一、則隨有_二眼識_一生、若_二乃至隨有_二起_レ五識身_一緣_二至_一、則隨有_二五識身_一生。

274 a
如_レ是廣慧、菩薩住_二法住智_一。得_二心意識秘密善巧_一、如來一切種一切智、不_レ說_二菩薩齊_一此名_二心意識秘密善巧_一。

廣慧、若菩薩於_レ內於_レ外、如實不_レ見_二阿陀那、阿陀那識_一。不_レ見_二阿梨耶、阿梨耶識_一。不_レ見_二滋長_一、不_レ見_二種種_一、_二此_二不_レ見_二眼色眼識_一、不_レ見_二耳聲耳識_一、不_レ見_二鼻香鼻識_一、不_レ見_二舌味舌

由_二此識於_レ身攝受藏隱同安義故_一。亦名為_レ心、何以故、由_二此識_一色聲香味觸等積集滋長故。

廣慧、阿陀那識為_レ依_二止_一、為_二建立_一故六識身轉。謂眼識耳鼻舌身意識。此中有_レ識、眼及色為_レ緣_二生_一眼識、與_二眼識_一俱隨行、同時同境有_二分別意識_一轉。有_レ識、耳鼻舌身及聲香味觸為_レ緣_二生_一耳鼻舌身識與_二耳鼻舌身識俱隨行、同時同境有_二分別意識_一轉。

廣慧、若於_二爾時_一一眼識轉即於_二此時_一唯有_二分別意識_一與_二眼識_一同_二所行_一轉、若於_二爾時_一二三四五諸識身轉、即於_二此時_一唯有_二分別意識_一與_二五識身_一同_二所行_一轉。

廣慧、譬如_二大瀑水流_一、若有_二一浪生緣現前_一、唯一浪轉。若_二若多浪生緣現前有_二多浪轉_一。然此瀑水自類、恒流無_レ斷無_レ盡。又如_二善淨鏡面_一、若有_二一影生緣現前_一唯一影起。若_二若多影生緣現前_一、有_二多影起_一、非_二此鏡面轉變為_レ影。亦無_二受用減盡_一可得。

如_レ是、廣慧、由_レ似瀑流_二阿陀那識_一為_レ依_二止_一、為_二建立_一故、若於_二爾時_一有_二一眼識生緣現前_一、即於_二此時_一一眼識轉。若於_二爾時_一乃至有_二五識身生緣現前_一、即於_二此時_一五識身轉。

廣慧、如_レ是菩薩雖_レ由_二法住智_一為_レ依_二止_一為_レ建

| blo gros yañs pa len pañi rnam par śes pa de la brten ciñ gnas nas rnam par śes pañi tshogs drug po ḥdi lta ste | mig gi rnam par śes pa dañ | rna ba dañ | sna dañ | lce dañ | lus dañ | yid kyi rnam par śes pa dag ḥbyuñ ño | | de la rnam par śes pa dañ bcas pañi mig dañ gzugs rnam la brten nas mig gi rnam par śes pa ḥbyuñ ste | mig gi rnam par śes pa de dañ lhan cig ḥjug pa dus dañ spyod yul mtshuñs pa rnam par rtog pañi yid kyi rnam par śes pa yañ ḥbyuñ ño |

| gal te mig gi rnam par śes pa gcig [N. 136 b] lan cig ḥbyuñ na ni mig gi rnam par śes pa dañ | spyod yul mtshuñs pa rnam par rtog pañi yid kyi rnam par śes pa yañ gcig kha na tsam lan cig ḥbyuñ ño | | gal te rnam par śes pañi tshogs gñis sam | gsum mam | bshi lhan cig gam | lña char lhan cig ḥbyuñ na yam der rnam [D. 127 a] par śes pañi tshogs lña po dañ spyod yul mtshuñs pa rnam par rtog pañi yid kyi rnam par śes pa yañ gcig kho na lan cig ḥbyuñ ño |

| dpeñi sgo nas rgyas par blo gros yañs pa ḥdi lta ste dper na chuñi kluñ chen po ḥbab pa las gal te rlabs gcig ḥbyuñ bañi rkyen ñe bar gnas par gyur na rlabs gcig kho na ḥbyuñ ño | | gal te rlabs gñis sam | gal te rab tu mañ po dag ḥbyun bañi rkyen ñe bar gnas par gyur na rlabs mañ po dag ḥbyuñ chiñ chuñi kluñ de rañ gi rgyun gyis rgyun ḥchad par yañ mi ḥgyur la | yoñs su zad par yañ mi ḥgyur ro | | me loñ gi [P. 149 a] dkyil ḥkhor yoñs su dag pa la gal te gzugs brñan gcig ḥbyuñ bañi rkyen ñe bar gnas par gyur na gzugs brñan yañ gcig kho na ḥbyuñ ño | | gal te gzugs brñan gñis sam | gal te rab tu mañ po dag ḥbyuñ bañi rkyen ñe bar gnas par gyur na gzugs brñan rab tu mañ po dag ḥbyuñ shiñ | me loñ gi dkyi la ḥkhor de gzugs brñan gyi dños por yoñs su ḥgyur ba yañ ma yin la | yañs su sbyor bar yañ mi mñon no |

| blo gros yañs pa de bshin du chu kluñ lta bu dañ | me loñ lta buñi len pañi rnam par śes pa de la brten ciñ gnas nas gal te mig gi rnam par śes pa gcig lan cig ḥbyuñ bañi rkyen ñe bar gnas par gyur na yañ mig gi rnam par śes pa yañ gcig kho na lan cig ḥbyuñ ño | | gal te rnam par śes pañi tshogs lña char gyi bar dag lan cig ḥbyuñ bañi rkyen ñe bar gnas par gyur na yañ rnam par śes pañi tshogs lña char lan cig ḥbyuñ ño | [N. 137 a]

| blo gros yañs pa de lta byañ chub sems dpañ chos kyi lugs śes pa la brten ciñ chos kyi lugs ses pa la gnas nas sems dañ | yid dañ | rnam par śes pañi gsañ ba la mkhas pa min la | de bshin gśegs pa ni byañ chub sems dpañ sems dañ | yid dañ |

(1) D. dus dañ spyod yul mtshuñs pa, P. N. dus mtshuñs pa | spyod yul mtshuñs pa.

(2) D. tsam, P. N. ナン。 (3) D. mam, P. N. ḥam. (4) P. N. ḥbyuñ, D. byuñ.

(5) D. las, P. N. la. (6) P. N. gyis rgyun, D. ナン。

(7) D. P. N. yoñs su sbyor ba, 玄奘訳は受用 yoñs su spyod pa のように見れる。

(8) D. śes, P. shes, N. 不明。 (9) D. śes, P. shes, N. 不明。

[1. 5]

等、於內於外、不見藏住、不見生及長等。不見識、眼、色及眼識。不見耳聲及耳識、乃至不見身觸及身識。

廣慧、諸菩薩依法如智有聰慧、能達達意心識祕密義。諸佛如來如理如量、由如比義、記說諸菩薩能達達意識心祕密義。

復次引偈重釋經所說義。執持識深細者、云何此識或說為阿陀那識。能執持一切有色諸根、謂能報持有依五根及相等習氣故、此識亦名阿陀那。深細者、難滅難解故。〔諸〕

種子恒流者、一切不淨品法、能生熏習所依住、如水流念念生滅、相續不斷。於凡我不說者、諸凡夫人無甚深行、不不求一切智、根鈍故、不為凡夫及二乘說。彼勿執為我者、一相起相續長。若眾生依經、起邪分別、即執此識為我。恐起邪執故我不為說。

158 a

論曰。云何此識或說為阿陀那識。釋曰。前已引正理及正教、證此識名阿梨耶。云何今、復、說此識名阿陀那。

論曰。能執持一切有色諸根、一切受生取依止故。何以故、有色諸根此識所執持、不壞不失乃至相續後際、又、正受生時、由能生取陰故。故六道身皆如是取。是

[1. 5]

識、不見身觸身識。廣慧、若菩薩依法住智、住法住智、得心意識善巧。

又復如此義者偈中顯示。阿陀那識甚深細者難知故。一切種子轉如流者、謂一切種子次第轉生、猶如水流、念念相續轉故。阿陀那

者顯別名故。不令分別謂為我者、一相轉故、分別謂為我。

論曰。何因緣故、說此識名阿陀那。攝持一切有色諸根故、及一切自身取依處故。於彼色根攝持不失、乃至命在故。又於相續受生時、取生命得自身故、是故名阿陀那。

釋曰。攝持一切有色諸根故者、謂此識色根為彼識攝持故、乃至命在者、即以此句為

[1. 5]

立故、於心意識祕密善巧、然諸如來不齊於此施設彼為於心意識一切祕密善巧菩薩。

廣慧、若諸菩薩於內各別如實不見阿陀那不見阿陀那識、不見阿賴耶識不見阿賴耶識。不見積集不見見心。不見眼色及眼識、不見耳聲及耳識、不見鼻香及鼻識、不見舌味及舌識、不見身觸及身識、不見意法及意識、是名勝義善巧菩薩。如

來施設彼為勝義善巧菩薩。廣慧、齊此名為於心意識一切祕密善巧菩薩。如來齊此施設彼、為於心意識一切祕密善巧菩薩。此伽他中重顯彼義。阿陀那識者、所釋異名。甚深細者、難了知故。一切種子如瀑流者、次第轉故、一切種子刹那展轉、如瀑水流相續轉故。恐彼分別執為我者、一行相轉故、分別執可得。

論曰。何緣此識亦復說名阿陀那識。執受一切有色〔諸〕根故、一切自體取所依故。所以者何。有色諸根由此執受。無有失壞、盡壽隨轉。又於相續正結生時、取彼生故、執受自體。是故此識亦復說名阿陀那識。釋曰。執受一切有色諸根故者、所以者何、

325 a

rnam par śes paḥi gsañ ba la mkhas par ḥdogs na de tsam gyis thams cad kyi thams cad du ḥdogs so |

| blo gros yañs pa gañ gi phyir byañ chub sems dpaḥ nañ gi so so rañ gi len pa mi mthoñ | len paḥi rnam par śes pa yañ mi mthoñ la | de yañ yañ dag pa ji lta ba bshin [D. 127 b] du yin pa dañ | kun gshi yañ mi mthoñ | kun gshiḥi⁽¹⁾ rnam par śes pa yañ [P. 149 b] mi kthoñ | bsags pa yañ mi mthoñ | sems kyañ mi mthoñ | mig kyañ mi mthoñ | gzugs kyañ mi mthoñ | mig gi rnam par śes pa yañ mi mthoñ | rna ba yañ mi mthoñ | sgra yañ mi mthoñ | rna baḥi rnam par śes pa yañ mi mthoñ | sna yañ mi mthoñ | dri yañ mi mthoñ | snaḥi rnam par śes pa yañ mi mthoñ | lce yañ mi mthoñ | ro yañ mi mthoñ | lceḥi rnam par śes pa yañ mi mthoñ | lus kyañ mi mthoñ | reg bya yañ mi mthoñ | lus kyi rnam par śes pa yañ mi mthoñ shiñ | blo gros yañs pa gañ gi phyir byañ chub sems dpaḥ nañ gi so so rañ gi yid kyañ mi mthoñ | chos rnams kyañ mi mthoñ | yid kyi rnam par śes pa yañ mi mthoñ la | de yañ yañ dag pa ji lta ba bshin du yin na | de ni byañ chub sems dpaḥ don dam pa la mkhas pa shes bya ste | de bshin gśegs pa yañ byañ chub sems dpaḥ don dam pa la mkhas pa ni sems dañ | yid dañ | rnam par śes paḥi gsañ ba la mkhas pa yin par ḥdogs so |

| blo gros yañs pa [N. 137 b] de tsham gyis sems dañ | yid dañ | rnam par śes paḥi gsañ ba la mkhas pa yin la | de bshin gśegs pa byañ chub sems dpaḥ sems dañ | yid dañ | rnam par śes paḥi gsañ ba la mkhas par ḥdogs na yañ de tsam gyis ḥdogs so shes bya ba dañ | yañ don ḥdi ñid tshigs su bcad pa | **len paḥi rnam par śes pa zab ciñ phra** | | shes bya ba la sogs pas bstan te | rtogs par dkaḥ baḥi phyir ro | | **sa bon thams cad chu boḥi rgyun bshin ḥbab** | | ces bya ba ni rim gyis ḥjug pa ñid kyis der sa bon thams cad chu boḥi rgyun bshin du skad cig maḥi rim gyis ḥjug pas so | | len paḥi rnam par śes [P. 150 a] pa shes bya ba ni miñ gi rnam grañs dañ | ñes paḥi tshig go | | **bdag tu rtog par gyur na mi ruñ** shes bya ba ni rnam pa gcig tu shugs pa ñid la bdag tu rtog par ma byed cig paḥo |

[1. 5] | **ciḥi phyir len paḥi rnam par śes pa shes bya she na | dbañ po gzugs can thams cad kyi rgyu yin pa dañ | lus thams cad⁽³⁾ ñe bar len paḥi gnas su gyur paḥi phyir te | ḥdi ltar tshe ji srid par rjes su ḥjug gi bar du des dbañ po gzugs can lña po dag ma shig par ñe bar gzuñ ba dañ | niñ⁽⁴⁾ mtshams sbyor ba sbrel ba na yañ⁽⁵⁾ de mñon par ḥgrub pa ñe bar ḥdsin paḥi phyir lus gzuñ ba yin te | de lta bas na de len paḥi rnam par śes pa shes byaḥo |**

(1) D. gshiḥi, P. N. gshi.

(2) D. rna, P. N. sna.

(3) P. N. thams cad, D. can.

(4) niñ の前に, D. にだけ有る。lus thams cad ñe bar len paḥi gnas su ḥgyur baḥi phyir |

(5) D. na, P. N. ナン。

取事用識所攝持一故、說名阿陀那。

釋曰。今、立三道理、爲成阿陀那名。道理者、能執三持一切有色諸根。由三此識執持有色五根、不如下死人身、在黑脹壞等有變異一位。若至三死位、阿梨耶識捨離五根。是時、黑脹壞等諸相即起。是故定知、由爲三此識一所執持、一期中五根不破壞。一切受生取依止故者、此言重答前問。此識衆生正受生時、能生三取陰。此取體性、識所三執持。由此識是正受生識。是故正受生時、一切生類皆爲三此識所攝。一期受身亦爲三此識所攝。於三阿梨耶識中、身種子具足故。以三義一故、阿梨耶識亦名三阿陀那。

[1. 6]

論曰。或說名三心。如佛世尊言三心意識。釋曰。阿梨耶識及意、見此二義不同。心義亦應有異。此三異相、云何。
論曰。意有三種。一能與三彼生、次第緣依故、先滅識爲意、又以三識生依止爲意。釋曰。若心前滅後生、無間能生三後心、說此名意。復有能作三正生識依止、與三現識不相妨。此二爲識生緣一故名爲意、正生者名識。此即意與識異。
論曰。二有染污意、與三煩惱恒相應。釋曰。此欲釋三阿陀那識。何者四煩惱。

釋。何以故、以眼等諸色根阿梨耶識攝持故、

不如下死身住三青瘀等相。若至三死時彼識捨離故、即有此諸青瘀等相。是故定知、由彼攝持三乃至三壽限不壞故。一切身取依處故者、即以三相續受生時、取三身命得三身故等解釋。以三相續受生識於三彼相續生處攝取故。何以故、能攝三持自身具足一故、由三阿梨耶識中具足自身三熏習住故、即彼生時、名爲三轉生。即彼生時、取名爲三轉生取。由此取一故取得自身。以三義一故、阿梨耶識說名三阿陀那識。

[1. 6]

274 b

論曰。亦說名三心。如世尊說三心意識。於中、意有三種。一次第緣與作三依處者、由三識三次第滅、意識依三此生故。第二染污意、與三煩惱常相應。謂身見、我慢、我愛、無明。此意即是餘識染污依止。餘識由三第一依止三生、由三第二染污。由三了境義一故、次第義故、念義故、意有三種。
釋曰。復說名三心者、阿梨耶識即名爲三心。意及識二種有別義一可見。當三知、此心亦有別義。爲三顯三示此三故。於三中、次第緣與作三依處一故者、謂識若次第滅已、得爲三意識因。

有色諸根由三此執受。盡三壽隨轉、用三此爲釋。謂由三眼等有色諸根阿賴耶識所三攝受一故、非

如三死身青瘀等位。若至三死時此捨離故、彼即便有青瘀等位。是故定知、此執受故、乃至三壽限一彼不三失壞。一切自體取所依故者、又於三相續正結生時三取三彼生一故、執三受自體、用三此爲釋。謂由三此識是相續識一故、於三相續正結生時三能攝三受生一期自體、亦爲三此識之所三攝受。由三阿賴耶識中一期自體熏習住一故。彼體起故、說名三彼生。受三彼生一故名三取三彼生。由三能取一故執三受自體。以三義一故阿賴耶識亦復說名三阿陀那識。

325 b

[1. 6]

論曰。此亦名三心。如世尊說三心意識三。此中、意有三種。第一與作三等無間緣所依止性。無間滅識、能與三意識一作三生依止。第二染污意、與三煩惱恒共相應。一者薩迦耶見、二者我慢、三者我愛、四者無明。此即是、識雜染所依。識復由三彼第一依一、第二雜染。了三別境義一故。等無間義故、思量義故、意成三三種。
釋曰。此亦名三心者、阿賴耶識即是心體。意識二義差別可得。當三知、心義亦有差別。顯三示此三故。此中、與作三等無間緣因性、謂

| **dbañ po gzugs can thams cad kyi rgyu yin pa** shes bya baḥi bśed pa ni ḥdi ltar tshe ji srid par rjes su ḥjug gi bar du shes bya ba la sogs pa yin te | gañ gi phyir [D. 128 a] mig la sogs paḥi dbañ po gzugs can rnam kun gshi rnam par śes pas ma bzuñ na śi baḥi lus bshin du sñon po la sogs paḥi gnas skabs su ḥgyur bas gan yañ śi baḥi dus na de dañ bral bar gyur pa na ḥdi dag kyañ sñon po la sogs paḥi gnas skabs su ḥgyur ro | | des na ḥdi ltar gzuñ bar bya ste | ji srid des bzuñ baḥi bar du tshe ñams par mi ḥgyur ro | | **lus thams cad ñe bar len paḥi gnas su gyur paḥi phyir na** yañ len pa ste | ḥdiḥi⁽¹⁾ bśad pa ni | **ñiñ mtshams sbyor ba sbrel ba na yañ de dag mñon par ḥgrub par ñe bar ḥdsin pa** shes bya ba ḥdis bśad pa yin no | | gañ gi phyir ñiñ mtshams sbyor bar byed pa des na yañ ñiñ mtshams sbyor shiñ sbrel ba mñon par ḥgrub⁽²⁾ pa ḥdsin par byed pas lus thams cad yoñs su gzuñ ba byas pas ḥgyur [N. 138 a] te | kun gshi rnam par śes pa la lus thams cad kyi bag shags kun tu gnas paḥi phyir ro | | de dag mñon par ḥgrub⁽³⁾ pa ste | **deḥi mñon par ḥgrub pa** ni de mñon par ḥgrub paḥo | | **ñe bar ḥdsin pa** ni de dag mñon par ḥgrub ba ñe bar len te | deḥi ñe bar ḥdsin pa yañ bdag gi dños po bskyed⁽⁴⁾ par ḥgyur baḥo | | don ḥdis ni kun gshi rnam par śes pa len paḥi rnam par śes pa ñid du yañ brjod pa yin no |

[1. 6] | **de ni sems shes kyañ bya ste** | bcom ldan ḥdas kyis⁽⁵⁾ sems dañ | yid dañ | [N. 5 a] rnam par śes pa shes ji skad gsuñs pa lta buḥo |

| **de la yid ni rnam pa gzis te** | **de ma thag paḥi rkyen byed pas gnas su gyur paḥi phyir** | rnam par śes pa ḥgags ma thag paḥi⁽⁶⁾ yid ces bya ba rnam par śes pa sbye baḥi gnas dañ | gñis pa ñon moñs pa can gyi yid ñon moñs pa bshi po ḥjig tshogs la lta ba dañ | ñaḥo sñam paḥi ña rgyal dañ | bdag la shags pa dañ | ma rig pa dañ rtag tu mtshuñs par ldan pa ste | de ni rnam par śes pa kun nas ñon moñs paḥi gnas so |

| rnam par śes pa ni gañ gnas geig pos ni bskyed la | gñis pas ni ñon moñs pa can du byas pa ste | yul la rnam par rig paḥi [D. 4 a] phyir rnam par śes paḥo |

| **de ma thag pa dañ** | ñar sems paḥi⁽⁷⁾ phyir yid ni rnam pa gñis so |

| yañ **de ni sems shes kyañ bya ste** | shes bya baḥi sems ñid ni kun gshi [P. 150 b] rnam par śes pa ste | yid kyi rnam par śes paḥi don sna tshogs ñid du dmigs pa ltar ḥdiḥi don yañ sna tshogs ñid du ḥgyur ro shes bya ba ḥdis bstan to | | de la mtshuñs

(1) D. ḥdiḥi, P.N. ḥdi.

(2) P.N. ḥgrub, D. grub.

(3) P.N. ḥgrub, D. grub.

(4) D. bskyed, P.N. skyed.

(5) D. kyis, P.N. kyi.

(6) D. paḥi, P.N. pa.

(7) D. sems paḥi, P.N. sems paḥi sems paḥi.

論曰。一我見、二我慢、三我愛、四無明。

158 b
釋曰。我見是執我。隨此心起我慢。我慢者由我執起高心。實無我起我貪。說名我愛。此三惑通以無明為因。謂諸實因果心迷不解名為無明。

論曰。此識是餘煩惱識依止。此煩惱識由

第一依止生、由第二染污。

釋曰。此染污識由依止第一識生、由第二識染污。次第已滅說名依止。餘識欲生能與生依止故。第二識名染污識。煩惱依止故。若人、正起善心亦有此識。

論曰。由緣塵及次第、能分別故此二名意。

釋曰。以能取塵故名識、能與他生依止故名意。第二識是我相等。或依止能分別故名意。

[1. 7]

論曰。云何得知有染污心。

釋曰。以何道理、能成立此義。

論曰。若無此心、獨行無明則不可說有。

釋曰。獨行無明其相云何。若人未得對治道。能障實慧惑名獨行無明。此無明於五識非有。何以故、若人在於五識不能為障。何以故、若是對治道生處、則是障處。於染污意識此亦非有。何以故、但由此惑心應

此是第一意。復有第二染污意。四種煩惱故。

於中、身見者、即是我執。由此執二故則有我慢。以取我自高、由此等實無我中、起我渴、名我愛。此等三種皆以無明為因。無明者、無智故。

餘識由第一依止生、由第二染污者、若識

次第滅已名為依止。與當生識一處所、為彼生依止故。第二染污意、為染污依止。何以故、由善心中亦有我故。由了境義故。次第義故、念義故、意有二種者、於中、取境界故名為識、與處所義故名第一意、我相等染污義故名第二意。

[1. 7]

論曰。復次云何得知有染污意。此若不

有獨行無明亦不有此、為過失。五識相似亦不有此、為過失。如五識身有同時依止二故。得眼等名不有此、為過失。無想定滅盡定無有差別、此為過失。無想定染污意得名、滅盡定不爾。故有差別。又即此無想一生無有煩惱、此為過失。若彼天中無有我及慢等者、又一切

無間滅識與意識為因。是第一意。

由四煩惱常所染污。是第二意。此中、薩迦耶見者、謂執我性。由此勢力便起我慢。恃我所而自高舉、於實無我起有我貪。名為我愛。如是三種無明為因。言無明者、即是無智。

識復由彼第一依生。第二雜染者、謂無間滅

識說名為依止。與將生識容受處所故作生依。第二染污意為雜染所依。以於善心中亦執有我故。了別境義故、等無間義故、思量義故、意成二種者、謂於此中由取境界說名為識、由與處義名第一意、由執我等一成雜染義名第二意。

[1. 7]

論曰。復次云何得知有染污意。謂此若

無不共無明則不得有、成過失二故。又五同法亦不得有、成過失二故。所以者何。以五識身必有眼等俱有依二故。又訓釋詞亦不得有、成過失二故。又無想定與滅盡定差別無有、成過失二故。謂無想定意識所顯、非滅盡定。若不爾者、此二種定應無差別。又無想天一期生中、應無染

325 c

pa de ma thag paḥi rkyen byed pa ñid kyi phyir rnam par śes pa gañ de ma thag par
 ḥgags pa ñid ni yid kyi rnam par śes paḥi rgyur ḥgyur bas de ni yid gcig go | | gñis
 pa ni ñon moṅs pa bshins ñon moṅs pa can gyi yid de | de ni ḥjig tshogs la lta ba
 ste | bdag ñid du mñon par shen pa dañ | gañ gi dbaṅ⁽¹⁾ ṅaḥo sñam du ña rgyal te |
 bdag ñid mthoḥo shes pa dañ | yañ de la mi bden paḥi bdag la sred paḥi bdag ñid⁽²⁾ la
 shags pa dañ | gsum po de dag gi rgyu ma rig pa ste | ma rig pa ni mi śes paḥo |
 | gañ gnas gcig pos ni bskyed la [D. 128 b] gñis pas ni ñon moṅs pa can du byas
 pa ste | shes bya ba de la ḥgags ma thag paḥi rnam par śes pa yid ces brjod pas ni
 rnam par śes pa thams cad ḥbyuñ baḥi skabs sbyin pas sbye baḥi rten yin no | |
 gñis pa ñon moṅs pa can ni kun nas ñon moṅs par byed pa ste | gañ gi⁽⁶⁾ phyir dge baḥi
 sems la yañ bdag go shes ḥbyuñ baḥi phyir ro | | yul la rnam par rig paḥi phyir rnam
 par śes paḥo | | de ma thag paḥi rten byed pa dañ | ñar sems [N. 138 b] paḥi phyir
 yid kyi rnam pa gñis so shes bya ba la | de la yul la ḥdsin paḥi don gyis na rnam
 par śes pa ni skabs ster baḥi don gyis ni yid gcig go | | bdag tu ña rgyal la sogs pas
 kun nas ñon moṅs paḥi don gyis na gñis pa ñon moṅs pa can gyi yid do |

[1. 7] | ñon moṅs pa can gyi yid de yod par ci mñon she na | de med du
 zin na⁽¹⁾ ma rig pa ma ḥdres pa med paḥi skyon du ḥgyur ro | (2) | lña po dag
 dañ ḥdra ba med paḥi skyon du yañ ḥgyur te | ḥdi ltar rnam par śes pa lñaḥi
 tshogs dag gi lhan cig ḥbyuñ baḥi gnas [P. 4 b] ni mig la sogs paḥo | (3) | ñes
 paḥi tshig med paḥi skyon du yañ ḥgyur ro | (4) | ḥdu śes med pa dañ | ḥgog paḥi
 sñoms par ḥjug pa bye brag med paḥi skyon du yañ ḥgyur te | ḥdi ltar ḥdu
 śes med paḥi sñoms par ḥjug pa ni ñon moṅs pa can gyi yid kyi rab tu phye
 ba yin gyis⁽⁸⁾ | ḥgog paḥi sñoms par ḥjug pa ni ma yin te | gshan du na ḥdi gñis
 bye brag med pa ñid du ḥgyur ro | (5) | gal te ḥdu śes med pa pa de na ñar
 ḥdsin pa dañ | ṅaḥo⁽¹⁰⁾ sñam paḥi ña rgyal med na ḥdu śes med par shyé ba thog

(1) D. gis, P. N. gi.

(2) D. ñid, P. N. ナン。

(3) D. gcig, P. N. cig.

(4) P. N. la, D. pa.

(5) P. N. pas, D. pos.

(6) P. N. gi, D. ナン。

(7) D. N. med, P. mad.

(8) P. N. gyis, D. gyi.

(9) P. N. med pa pa, D. med pas.

(10) D. N. ṅaḥo, P. ra ḥo.

染汚一故。與餘惑相應共行，獨行名則不成。若汝說第六識由獨行無明染汚。則第六識一向不清淨。以此無明不暫息，云何施等心成善。以第六識恒與無明相應一故。若有人說心與善相應生，此人則有過失。若第六識恒被染汚一則不得引對治道生。若有人說染汚心相應有別善心，此善心能引生對治道一故，染汚心即滅。若作此說則無過失。

158 c

論曰。與五識相似此法應無。何以故，此五識共一時有自依止。謂眼等諸根。釋曰。猶如眼識等五識，眼等五根同時為依止，意識必應有同時依止。若不立餘識，亦無此依止。如下眼識無依止不得生，意識亦應爾。

論曰。復次，意名應無有義。釋曰。云何無義，若立前滅心為意，此但有名無義。何以故，意以了別為義。於無中云何可立。是識隨六識前已滅。此意名不可得，不能了別。以無體故。論曰。復次，無想定滅心定，應無有異。何以故，無想定有染汚心所顯，滅心定不爾。若不爾，此二定應不異。釋曰。若人立有染汚心，此人於無想定則

時我執得行。謂善惡無記心若不如是，唯不善心中得相應。我執是煩惱故。不應與善無記心共行。是故若俱有而共行，則無此過。若相應現行，則有此過一故。此中有偈。

274 c

若獨行無明 及相似五法
二種定差別 得名無是過
無想天中生 無我則有過
我執隨順轉 一切處不有
離染意不有 二三即相違
無此即亦無 一切處我執
心行實義時 常與為障礙
一切時共行 名獨行無明
釋曰。此第二染污意以何道理得成立。此意若不有，則獨行無明不成。何者是獨行無明，未起對治時，障真如智。癡此與五識不相應。於此處不為障礙故。若起對治處，則於彼為障。亦不在染污意識。若即是染污意識，則有過失。非染污意識者，以與餘煩惱共行，獨行名則不成。又若欲令即是煩惱染污意識者，則有常染污過失。云何施等心得成善。以常與彼相應一故。若言有意與善相應生，即建立此為引生對治。能治染污意識此不成。若言有善心與染污意共生。此善心能引生對治。治

汚，成過失一故。於中，若無我執我慢。又一切時我執現行，現可得故。謂善不善無記心中。若不爾者，唯不善心彼相應故，有我我所煩惱現行，非善無記。是故，若立俱有現行，非相應現行無此過失。此中，頌曰，

若不共無明 及與五同法
訓詞，二定別，無，皆成過失。
無想生應無 我執轉成過
我執恒隨逐 一切種無有。
〔離〕染意無有 二、三成相違。
無此一切處 我執不應有。
眞義心當生 常能為障礙、
俱行一切分 謂不共無明。
此意染污故，有覆無記性，與四煩惱常共相應。如色無色二纏煩惱，是其有覆無記性攝。色無色纏為奢摩他所攝障一故，此意一切時微細隨逐故。
釋曰。此文復以餘道理成立染污意。何等名為成立道理。謂此若無不共無明即不得有。不共無明，其相云何，謂末生對治能障眞智一愚。此於五識理不相應。是處無容能為障故。若處有能治此處有所治，亦不得在染污意識。此非有者，餘惑現行

thag tu ñon moñs pa can ma yin pañi skyon du yañ hgyur ro | (6) | dge ba dañ
mi dge ba dañ luñ du ma bstan pañi sems rnams la yañ ñar hdsin pa dus
thams cad du kun tu hbyuñ bar dmigs pañi yañ phyir ro | | gshan du na ni
mi dge bañi sems kho na dañ de mtshuñs par ldan pas ñaño sñam pañi ñon
moñs pa kun [N. 5 b] tu hbyuñ gi | dge ba dañ luñ du ma bstan pa dag la ni
ma yin no | | deñi phyir lhan cig hbyuñ bar kun tu hbyuñ ba dañ | mtshuñs
par ldan par kun tu hbyuñ bas skyon hdi dag tu mi hgyur ro | | hdir tshigs
su bcaḍ pa |

- a. | ma hḍres pa yi ma rig dañ | | lña po dag dañ hḍra ba dañ |
| sñoms par hjug paño bye brag dañ | | ñes tshig med pañi skyon du hgyur |
b. | hḍu śes med par skye bañi rgyun | | ñar hdsin med pañi skyon du hgyur |
| ñar hdsin pa dañ ldan par ni | | rnam pa kun tu mi hḥthad do |
c. | ñon moñs can gyi yid med na | | gñis med gsum po hgal bar hgyur |
| de med na ni ñar hdsin pa | | kun na yod par mi hgyur ro |
d. | yañ dag don la hjug pa yi | | sems kyi bgegs su rtag gyur dañ |
| dus rnams kun tu hbyur ba de | | ma hḍres pa yi ma rig hḍod |

[D. 4 b] | yid ni ñon moñs pa can yin pañi phyir bsgribs la luñ du ma bstan
pa ste | sgrib pañi ñon moñs pa rnam pa bshi dañ rtag tu mtshuñs par ldan
no | | gzugs dañ gzugs med pa no spyod pañi [P. 5 a] ñon moñs pa bshin du hdi ni
bsgribs la luñ du ma bstan pa ñid do | | gzugs dañ gzugs med pa na spyod
pañi yid ni shi gnas kiyis hḥkhyud pa yin la | yid ni dus thams cad du ldan pañi
phyir ro |

(5) yañ de ltar grags pa de sgrub pa gañ yin she na | de med du zin na ma rig pa ma
hḍres pa med pañi skyon du hgyur ro | | yañ ma hḍres pañi ma rig pa gañ she na |
gñen po ma skyes pa na de kho na ñid śes pa la sgrib par byed pa ste | de yañ rnam
par śes pa lña la ni ldan pa [D. 129 a] ma yin te | de la gnas pa la mi sgrib pañi phyir
gañ na [N. 139 a] gñen po hbyuñ ba yod pa de ni mi mthun pañi phyogs kyañ hbyuñ
ba yin no shes bya bas so | | ñon moñs pa can ma yin pañi yid kyi rnam par śes pa de
la yañ med de | ñon moñs pa can ñid du thal bar hgyur bañi phyir ro | | ñon moñs

(1) D. P. N. ldan par, Lamotte. ldan pa ma yin par.

(2) P. N. par, D. pañi.

(3) P. N. gyur, D. hgyur.

(4) P. N. hḥkhyud, D. khyad.

(5) この [1. 7] の注釈部分の全体が、チベット訳では [1. 10] の注釈部分の中に有ったものである。
しかし、漢訳諸本に依ってここに移動した。

(6) D. ni, P. N. na.

說有_レ染汚心、於_レ滅心定則說無_レ染汚心。對_レ此人二定則有_レ差別。若不_レ如此於_レ三定一意識不_レ行故、二定則無_レ異。

論曰。復次、於_レ無想天一期、應_レ成_レ無流無失。無_レ染汚故、於_レ中、若無_レ我見及我慢等。復次、一切時中起_レ我執、遍_レ善惡無記心中。若不_レ如此但惡心與_レ我執等相應故、我及我所、此惑得_レ行。於_レ善無記中則不_レ得_レ行。若立_レ三心同時生、無_レ此過失。若立_レ與_レ第六識相應行、有_レ此過失。

釋曰。於_レ無想天生、若無_レ染汚心、一期生中則無_レ我執及我慢等。此生便無_レ流失、此定不_レ應_レ爲_レ聖人所_レ厭惡。既爲_レ聖人所_レ厭惡故、知_レ此定有_レ染汚識。由_レ我執恒相隨、施等諸善常爲_レ我執所_レ雜我執恒隨。若離_レ無明一則無_レ此事。此無明若離_レ依止則不_レ得_レ有。此無明依止、若離_レ阿陀那識無_レ有_レ別體。

159 c

論曰。
無_レ獨行無明、及相似五識、
二定無_レ差別、意名無_レ有_レ義、
無想無_レ我執、一期生無流、
善惡無記中、我執不_レ應_レ起。
離_レ汚心不_レ有、二與_レ三相違。
無_レ此一切處、我執不_レ得_レ生。

滅_レ餘識。此滅則無_レ過。復次與_レ五識相似故。如_レ眼識等五識、則有_レ眼等五根。同時爲_レ依止。此意識亦應有_レ同時依止。

二定無_レ差別者、若言_レ有_レ染汚意、彼無想定中則有、滅心定中則無。可_レ得_レ差別。此二定中意識不_レ行無_レ差別故。得_レ名者、由_レ念_レ自身故名爲_レ意。若無體此名何所依。若六識次第過已、此識名_レ意不應_レ道理。以其滅故。

又無想天生、一期應_レ無_レ我故。若言_レ彼處無_レ染汚意者、於_レ彼生中一則應_レ無_レ我。諸聖人不_レ應_レ厭惡。既厭惡故。是故應_レ知_レ彼中生者、應_レ定有_レ我。我執隨順轉者、以_レ施等諸善一皆與_レ我相應故。此我執若離_レ無明一則不成。無明不_レ離_レ依止、此依止離_レ染汚意不_レ可_レ得故。

275 a

論曰。此意染汚故、是障礙無記。恒與_レ四煩惱相應。如_レ色無色界煩惱、是障礙無記。爲_レ色無色界著摩他所識、此意一切時染著。

326 a

名不_レ成故。若立_レ此煩惱在_レ染汚意識、即應_レ畢竟成_レ染汚性。云何施等心得_レ成_レ善。與_レ此煩惱恒相應故。若說_レ有意識與_レ善法俱轉、此即與_レ彼煩惱相應。是染意識引_レ生能治、不_レ應_レ道理。若說_レ染汚意俱轉有_レ善心、即此善心引_レ生能治、此生彼滅、即無_レ過失。又五同法故、所以者何。譬如_レ眼等五識、必有_レ眼等五根爲_レ俱有依。如是意識亦應_レ決定有_レ俱有依。

又訓釋詞故、所以者何。能思量故說名爲_レ意。此訓釋詞何所依止。非_レ彼六識與_レ無間識作_レ所依止、應_レ正道理。已謝滅故。又二定別故、所以者何。若定說_レ有_レ染汚意者、無想定中即有_レ此意、餘定中無故有_レ差別。若異_レ此者、於_レ三定中第六意識並不_レ行故、應_レ無_レ差別。

又無想中生應_レ無_レ我執故。所以者何。若彼位中無_レ染汚意、彼一期生應_レ無_レ我執。若爾不_レ應_レ聖所_レ詞厭。既被_レ詞厭、是故定知、彼有_レ我執。又我執隨故、所以者何。施等位中亦決定有_レ我執隨故。比我執隨若離_レ無明不_レ應_レ道理。非_レ此無明離_レ所依止、此所依止離_レ染汚意無_レ別體故。故定應_レ許_レ有_レ染汚意。若不_レ許者有_レ上過失。

pa can ma yin pa ni gshan du ñon moñs pa dañ | kun tu spyod par mi ḥgrub po |
 [P. 151 b] | de lta na ñon moñs pas ñon moñs pa can du yid kyi rnam par śes pa
 khas len na śin tu ñon moñs pa can ñid du thal bar ḥgyur bas ji ltar sbyin pa la sogs
 pa dge baḥi sems ḥbyuñ bar ḥgyur | de dañ mtshuñs par ldan pa las te | yañ gañ
 dge ba dañ mtshuñs par ḥjug paḥi yid yod pas de la de mtshuñs par ldan par ḥgyur
 gyi | yañ ñon moñs pa can gyi yid la ni gñen poḥi phyogs ḥdren par mi rigs so | |
 yañ gañ la ñon moñs pa tsam gyi yid dañ mtshuñs par ḥjug pa dge baḥi sems yod na
 | de dañ des drañs paḥi gñen poḥi phyogs skyes pa na cig śos ḥgag pa yin pas ḥdi la
 skyon med do |

| lña po dag dañ chos mtshuñs dañ ste | ji ltar mig gi rnam par śes pa la sogs pa
 lña po dag la mig la sogs pa lña po dag rten mtshuñs par yod pa de bshin du yid kyi
 rnam par śes pa la yoñ de dañ mtshuñs par ḥgyur baḥi rten yod pa min no |

| sñoms par ḥjug paḥi bye brag dañ ste | gañ la ñon moñs pa can gyi yid yod pa
 de ni ḥdu śes med paḥi sñoms par ḥjug pa ste de yod pas so | | gshan la ni de med
 de | de ni khyad par yin no | | gshan du na gñi ga la yid kyi rnam par śes pa kun
 tu rgyu ba med na bye brag med par ḥgyur ro |

| des tshig med paḥi skyon du ḥgyur | gañ ḥdi skad du ñar ḥdsin pas na yid ces bya
 baḥi ñes paḥi tshig de skad du brjod [N. 139 b] paḥi gshi gañ yin | rnam par śes pa
 drug po ḥgags ma thag paḥi rnam par śes pa la ni ḥdi ltar mi brjod de | ḥgags paḥi
 phyir ro |

(1) P. N. moñs, D. mañs.

(2) D. dañ, P. N. la.

(3) D. N. mtshuñs, P. mtshañs.

(4) (5… …5) の文章は玄奘訳ではこの(4)の前に来る。注釈の順序としては玄奘訳が正しい順序のようである。しかし、本校はチベット訳に依った。

證見眞實義、惑障令不起、

恒行一切處、名獨行無明。

論曰。此心染汚故無記性攝。

釋曰。此心是無明所依。於三性中、此心屬何性。由染汚故、屬有覆無記性。何以故、有染汚故。云何有染汚。

論曰。恒與四惑相應。

釋曰。不了無我境故、起我執、由我執起我愛我慢、此四惑一切處恒起。

論曰。譬如色無色界惑是有覆無記。此二界煩惱奢摩他所藏故。

釋曰。界以生性爲義。離淫欲及段食欲、由色欲生故名色界。離下二界欲、由無色欲生故名無色界。此二界惑雖與第六識相應、不失無記性。由八定所藏故。此惑若在欲界散心應成不善。由依止、此惑若在第二識相應、雖不在定中、亦非不善。以依止、最細故。若在色無色界、依止、雖離、八定所攝心、軟滑故、亦非不善。能生生死亦非是善。故屬有覆無記性。第二識所起惑亦爾。依止、細故非不善。是生死因故亦非是善。

論曰。此心恒生不廢。

釋曰。此染汚心三性中、八定無想定無想天處、

重顯彼故說四伽他、若不共無明等、乃至廣說。此中、不共無明者、謂於一切善不善無記、煩惱隨煩惱位中、染汚意相應俱生無明。彼若無者成大過失。常於三苦等障礙智生。是其業用、此即顯無業用過失。五同法者、第六意識與五識身有相似法、彼有五根、阿賴耶識爲俱有依、此亦如是有染汚意、阿賴耶識爲俱有依。此五同法離染汚意、決定無有。此則顯無自性過失。訓詞若無成過失者、取所緣相而思量故、無間滅時能取境故說名爲意。過去已滅無所思量、云何當有能思量性。訓詞無故成大過失。二定別者、滅盡定中無染汚意、無想定中有染汚意。此若無者、如是一定差別應無、成大過失。又染汚意若無有者、無想身中應無我執。非異生者於相續中暫離我執應正道理。如是諸過離染汚意皆定應得故、應定許有染汚意。爲顯此義故、復說言無有二等。二者即是不共無明、五相似法。三相違者、謂訓釋詞二定差別、無想生中我執恒隨。離染汚意如是三事皆成相違。無此一切處我執不應有者、離染汚意於一切種善等位中、我執恒隨不應得有故。應定許有染汚意。餘文易了、不復須釋。

326 b

| ḥdu śes med paḥi skye baḥi rgyun thob pa na ḥnar ḥdsin pa med paḥi skyon du ḥgyur te | | ḥdī ltar deḥi dus skabs na ḥnon moḥs pa can gyi yid med na ḥnar ḥdsin pa med par skye bar⁽¹⁾ ḥgyur ro | | de lta na ni ḥphags [P. 152 a] pas [D. 129 b] kyaḥ⁽²⁾ smad par mi ḥgyur na de ni smad pa ḥnid yin pas des na de ni de na yod pa ḥnid du rtags par byaḥo |

| ḥnar ḥdsin pa daḥ ldan par ni ste | sbyin pa la sogs pa sbyin pa la yaḥ ḥnar ḥdsin pa daḥ ldan pa ḥnid do | | ḥnar ḥdsin pa daḥ ldan pa yaḥ ma rig pa med par mi rigs la | ma rig⁽³⁾ pa yaḥ rten med par ma yin shiḥ | rten yaḥ ḥnon moḥs pa can gyi yid med na gshan med de |

(1) D. skye bar, P. N. ナシ。

(2) D. kyaḥ, P. gyaḥ, N. 不明。

(3) D. N. gshan, P. gshal.

[1. 8]

恒生不廢。

159 b

論曰。尋第二體。離阿梨耶識不可得。釋曰。第二識緣第一識起我執。若離第一識。此識不得起。故知有第一識。今成就第二識。為顯第一識之故。

論曰。是故阿梨耶識成就為意。依此以為種子之餘識得生。

釋曰。離第一識無別識體為第二識因及生起識因。佛說心名。此名目第二識。佛說識名。此名目三六識。佛說意名。此名目第一識。何以故。第二識及生起識。若前已滅後識欲生。必依第一識生。及能生自類之故。說名意根。

[1. 9]

論曰。云何此意復說為心。多種熏習種子所聚故。

釋曰。第一識或名質多。質多名有何義。謂種種義及滋長義。種種者自有二十義。一增上緣。二緣緣。三解相。四共作。五染汚。六業熏習。七因。八果。九道。十地。此義中各有三種義。故名種種。滋長有三義。一由此十法聚集。令心相續久住。二此心能攝持一切法種子。三是種種法熏習種子之所滋長。種子者。謂功能差別因。所滋長者。謂變異為三界。由此義之故。佛說第一識亦名質多。

[1. 8]

故心體第三。離阿梨耶識不可得。是故成阿梨耶識為心。由此為種子之故。意及意識等轉生。

[1. 9]

何緣故說名為心。種種諸法熏習種子聚集之故。

釋曰。以見見意及轉識。以阿梨耶識為因生故。心體餘處不可得。佛說識者。即是次第滅意所攝。由彼識滅已說為意故。復次由種種法熏習種子聚集故。得名心於中。種種者。諸法各各相故。熏習種子者。謂有三功能為彼差別因之故。聚集者。密合積聚一摶相故。

[1. 8]

論曰。心體第三。若離阿賴耶識無別可得。是故成就阿賴耶識以為心體。由此為種子之意及識轉。

釋曰。心體第三。若離阿賴耶識無別有性。由此為因意又轉識皆得生起。見取轉識當知亦即取第二意。所以者何。彼將滅時得意名之故。

[1. 9]

論曰。何因緣故。亦說名心。由種種法熏習種子所聚集之故。

釋曰。復欲釋名故作此問。由種種法者。由各別品類法。熏習種子者。功能差別因。所聚集之故者。是極積聚。一合相義。

[1. 8] | **kun gshi rnam par śes pa ma gtogs par sems kyi lus gsum pa mi dmigs te | de lta bas na kun gshi rnam par śes pa ni sems ñid yin par grub po | | sa bon thams cad pa de las yid dañ rnam par śes pa ḥbyuñ no |**

| gshan yan gañ ñon moñs pa can gyi yid de med na | gañ gi rgyu can yid dañ ḥjug paḥi rnam par śes pa yañ ḥjug par mi ḥgyur ro shes blta bar byaḥo | [P. 151 a] | rnam par śes pa smos pas yid gñis pa yañ smos pa ñid du ḥgyur te | rgyu gañ gis yid gañ ḥgags pa de ñid yid ces brjod na thob paḥi phyir ro |

[1. 9] **de yañ ciḥi phyir sems śis kyañ bya she na | chos kyi bag chags kyi sa bon sna tshogs rnam kyis kun tu bsags paḥi phyir ro |**

| yañ ḥdi ñes paḥi tshig ni rnam pa sna tshogs kyi chos kyi bag chags kyi sa bon gyis gañ shiñ ñe bar len paḥi phyir ro | | de la **rnam pa sna tshogs** ni rnam pa tha dañ paḥo | | **chos kyi bag chags kyi sa bon** shes bya ba ni rgyu gañ gis nus paḥi khyad par ro | | gañ shiñ shes bya ba ni śin tu gañ shiñ bsags shes bya baḥi don to |

(1) P. N. yid, D. yid kyi.

(2) D. na, P. N. pa.

(3) P. N. śis, D. shes.

(4) D. kyis, P. N. kyi.

(5) P. N. bsags, D. bstags.

(6) D. ḥdi, P. N. ḥdiḥi.

(7) D. chos kyi, P. N. ナシ。

[1. 10]

論曰。云何於聲聞乘不說此心相、及說阿梨耶、阿陀那名。微細境界所攝故。

釋曰。問名問名體。答通答兩問。此識於所知中最微細。以非二乘所緣故、此識亦是境界。若求佛果人、必須通達此識。此識是應知等九義所依藏故、故名所攝。復次菩薩有微細境界藏、此識難解故屬微細境界藏攝。

論曰。何以故、聲聞人無有勝位為得一切智智。

159 c 釋曰。何故於聲聞乘不說微細境界。聲聞人不作正勤求知如來境界、修行唯為自利故。諸聲聞人惑障由苦等智鈍淺觀行、可得除滅。

論曰。是故於聲聞人、離此說由成就智、令本願圓滿故不為說。

釋曰。諸佛見聲聞人少欲知足、求除自惑障。此障若離此智、由餘智可得滅除、本願得成、不為解脫他障、不發願求如來法身修行微細甚深道。故不為說。

論曰。諸菩薩應有勝位、為得一切智智故、佛為說。

釋曰。諸菩薩求滅自他惑障及智障故。修行正勤故、為諸菩薩一說。

[1. 10]

論曰。復次、何故聲聞乘中、不說此心名阿梨耶識、阿陀那識。微細爾焰所攝故。

諸聲聞人不為知一切爾焰故。於彼雖離此說、然得成就彼智令得解脫。是不說諸菩薩等為欲知一切爾焰。是故為說。由離此智不可得一切智智故。

釋曰。微細爾焰所攝故者、此亦微細、亦爾焰故、名微細爾焰。又入在微細爾焰中以難得知一故。又諸聲聞不為知一切爾焰故。修行唯作自利一故、彼等煩惱障。唯以苦等智得滅故。菩薩為除自他煩惱障智障故修行。是故為說。

[1. 10] 326 c

論曰。復次、何故聲聞乘中不說此心名阿梨耶識、名阿陀那識。由此深細境界所攝故。所以者何、由諸聲聞不於一切境智處轉。是故於彼、雖離此說、然智得成、解脫成就故、不為說。若諸菩薩、定於一切境智處轉。是故為說。若離此智、不易證得一切智智。

釋曰。由此深細境界所攝一者、謂此境界即深細故名深細境。此即深細境界中攝難了知一故。非諸聲聞為求一切境界智故正勤修行、唯正希求自義利一故、彼由鈍淺苦等正智、便能永斷煩惱障故。若諸菩薩為利自他、求斷煩惱及所知障正勤修行。是故為說。

攝大乘論釋卷第一

[1. 10] | cihi phyir ñan thos kyi theg par sems de kun gshi rnam par ⁽¹⁾śes
 pa shes bya bar ram | len paḥi rnam par śes pa shes bya bar ma bstan ce
 na | śes bya phra mo bsdu baḥi phyir te | ñon thos rnams ni śes bya thams
 cad śes pa ⁽²⁾la gtogs pa ma yin no | | deḥi phyir de dag ni de bstan pa med
 par yañ śes par rab tu grub pas rnam par grol ba rab tu grub paḥi ⁽³⁾phyir ma
 bstan to | | byañ chub sems dpaḥ rnam ni śes bya thams cad śes pa ⁽⁴⁾la gtogs
 pa yin no | | deḥi phyir de dag la bstan te | de śes pa med ni thams cad mkhyen
 [N. 6a] paḥi ye śes thob par sla ba ma yin no |

śes bya phra mo kun tu bsdu paḥi phyir te shes bya ba ni de phra mo yañ yin
 la śes bya yañ yin pas śes bya phra mo ste | śes bya phra moḥi khoṅs su gtogs pa
 ham | rtogs par dkaḥ baḥi phyir ro | | ñon thos ni śes bya thams cad śes paḥi don
 du spro ba med kyi | bdag gi don ḥbaḥ shig gi rgyur de dag ni ñon moṅs paḥi sgrib
 pa rags pa ñid sdug bsñal la sogs pa śes pas spoñ ño | | byañ chub sems dpaḥ ni bdag
 dañ gshan rnams kyiḥo | | ñon moṅs pa dañ śes byaḥi sgrib pa spaṅs paḥi phyir ḥbad
 pas de dag gi phyir bstan to |

(1) P. N. ce, D. she.

(2) P. N. śes pa, D. lhag par śes pa.

(3) D. P. N. de dag, 長尾本. de dag <la>.

(4… …4) D. rnam par grol ba rab tu grub paḥi, P. N. ナン.

(5) (2)に同じ。

(6) P. N. bstan, D. de bstan.

(7) D. par, P. N. pa.

(8) チベット訳では [1. 7] の注釈部分全体が、この文章の前に有る。しかし、漢訳諸本に依って前に移動した。なお、(8)のチベット訳は、玄奘訳では「求_レ断_二煩惱及所知障_一正勤修行, 是故為説」に相当する。

論曰。何以故、若離_二此智_一得_二無上菩提_一無_レ有_二是處_一。

釋曰。若離_二甚深微細境_一、十種次第修則不_レ得_レ成。若離_二此修_一、心煩惱易_レ除、法身易_レ得、無_レ有_二此義_一。